

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キンジョウガクイン 学校法人 金城学院								
フリガナ大学の名称	キンジョウガクインダイガク 金城学院大学 (Kinjo Gakuin University)								
大学本部の位置	愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地								
大学の目的	<p>本学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>【文学部 総合歴史学科】 他者を尊重し、他者と共感的に関わる豊かな人間性を有し、広く教養を身につけ、歴史や文化に関する知識と技能をもつ人材を育成する。日本、アジア、西洋の歴史を学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を持ち、現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、異なる歴史的背景をもつ人々と協働し、自身の思考力と判断力を用いて国際社会に貢献できる人材を養成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部 総合歴史学科 計	年 4	人 60 60	年次 人 - -	人 240 240	学士 (歴史学)	文学関係	年 月 第 年次 令和8年4月 第1年次	愛知県名古屋市 守山区大森二丁 目1723番地
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>金城学院大学 (設置) 文学部国際英語学科 (80) (令和7年4月届出予定) 文学部総合歴史学科 (60) (令和7年4月届出予定) 経営学部経営学科 (140) (令和7年4月届出予定) デザイン工学部建築デザイン学科 (80) (令和7年4月届出予定) デザイン工学部情報デザイン学科 (110) (令和7年4月届出予定)</p> <p>(廃止) 文学部英語英米文化学科 (△90) 文学部外国語コミュニケーション学科 (△80) 生活環境学部生活マネジメント学科 (△70) 生活環境学部環境デザイン学科 (△80) 国際情報学部国際情報学科 (△170) (3年次編入学定員 (△10)) 人間科学部コミュニティ福祉学科 (△75) (3年次編入学定員 (△5)) ※令和8年4月学生募集停止 (国際情報学部の3年次編入学定員は令和9年4月募集停止)</p> <p>(入学定員変更) 文学部音楽芸術学科 (△10) (令和8年4月) 人間科学部現代子ども教育学科 (△20) (令和8年4月) (3年次編入学定員 (△5) (令和8年4月)) 人間科学部多元心理学科 (3年次編入学定員 (△5) (令和10年4月))</p> <p>金城学院大学大学院 (設置) 看護学研究科看護学専攻 (6) (令和7年3月認可申請)</p>								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	文学部総合歴史学科	129科目	61科目	9科目	199科目	124単位					
	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)			
		教授	准教授	講師	助教	計					
新設	文学部 国際英語学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	86 (64)			
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	/	/			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)					
	小計(a～b)	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計(a～d)	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)					
	文学部 総合歴史学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			0 (0)	85 (66)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計(a～b)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計(a～d)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)					
	経営学部 経営学科	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)					0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	/					/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計(a～b)	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)						
計(a～d)	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)						

令和7年4月届出済み(予定)
大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人

令和7年4月届出済み(予定)
大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人

分	デザイン工学部 建築デザイン学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	79 (62)	令和7年4月届出済み(予定) 大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a~b)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a~d)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)				
デザイン工学部 情報デザイン学科	7 (7)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	19 (19)	1 (1)	74 (58)	令和7年4月届出済み(予定) 大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 7人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	17 (17)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)				
小計(a~b)	6 (6)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	18 (18)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)				
計(a~d)	7 (7)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	19 (19)				
計	37 (37)	23 (23)	9 (9)	0 (0)	69 (69)	2 (2)	— (—)		
既	文学部 日本語日文化学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	241 (241)	大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a~b)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a~d)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)				
文学部 音楽芸術学科	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)	0 (0)	252 (252)	大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 4人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (4)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)				
小計(a~b)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a~d)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)				

人間科学部 現代子ども教育学科						13 (13)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	235 (235)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
小計 (a～b)						13 (13)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						13 (13)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
人間科学部 多元心理学科						11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)	0 (0)	216 (216)	大学設置基準別表第一に定め る基幹教員数の四分の三の 数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)			
小計 (a～b)						11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)			
生活環境学部 食環境栄養学科						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	5 (5)	211 (211)	大学設置基準別表第一に定め る基幹教員数の四分の三の 数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
看護学部 看護学科						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)	21 (21)	225 (225)	大学設置基準別表第一に定め る基幹教員数の四分の三の 数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)			

		薬学部 薬学科				24 (23)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	34 (32)	13 (13)	217 (217)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の 数 24人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						23 (22)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	33 (31)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計 (a～b)						24 (23)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	34 (32)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						24 (23)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	34 (32)			
分		計				74 (71)	30 (29)	12 (12)	0 (0)	116 (112)	39 (39)	— (—)	
合 計						111 (108)	53 (52)	21 (21)	0 (0)	185 (181)	41 (41)	— (—)	
職 種		専 属				そ の 他				計			
事 務 職 員		73人 (73人)				70人 (70人)				143人 (143人)			
技 術 職 員		1人 (1人)				2人 (2人)				3人 (3人)			
図 書 館 職 員		4人 (4人)				1人 (1人)				5人 (5人)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)				0 (0)				0 (0)			
指 導 補 助 者		0 (0)				0 (0)				0 (0)			
計		78人 (78人)				73人 (73人)				151人 (151人)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計					
	校 舎 敷 地	128,680.35㎡	0㎡		0㎡			128,680.35㎡					
	そ の 他	135,839.34㎡	0㎡		0㎡			135,839.34㎡					
	合 計	264,519.69㎡	0㎡		0㎡			264,519.69㎡					
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計					
		84,678.91㎡ (84,678.91㎡)	0㎡ (0 ㎡)		0㎡ (0 ㎡)			84,678.91㎡ (84,678.91㎡)					
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	353室		教 員 研 究 室			238室			大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点						
	文学部総合歴史学科	545,931 [127,447] (535,931 [126,947])	2,745 [599] (2,745 [599])	33,688 [24,268] (33,688 [24,268])	25,995 [23,357] (25,995 [23,357])	0 (0)	0 (0)	学部単位での特定不能 なため、図書・学術雑 誌・視聴覚資料につい ては大学全体の数。					
	計	545,931 [127,447] (535,931 [126,947])	2,745 [599] (2,745 [599])	33,688 [24,268] (33,688 [24,268])	25,995 [23,357] (25,995 [23,357])	0 (0)	0 (0)						
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂			厚生補導施設						
		5,705.9㎡		4,594.64㎡			1,916.60㎡						
経 費 の 見 積 り 総 合 歴 史 学 科 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
	教員1人当り研究費等		150千円	150千円	150千円	150千円	-	-					
	共同研究費等		4,500千円	4,500千円	4,500千円	4,500千円	-	-					
	図書購入費	4,000千円	6,400千円	6,400千円	6,400千円	6,400千円	-	-					
	設備購入費	0千円	808千円	808千円	808千円	808千円	-	-					
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		1,422千円	1,222千円	1,222千円	1,222千円	-	-						
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等											

大学等の名称	金城学院大学								所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	文学部						0.67		愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地
	日本語日本文化学科	4	70	—	280	学士 (日本語日本文学)	1.06	昭和29年度	
	英語英米文化学科	4	90	—	360	学士 (英語英米文化)	0.62	昭和24年度	
	外国語コミュニケーション学科	4	80	—	320	学士 (外国語コミュニケーション学)	0.40	平成9年度	
	音楽芸術学科	4	45	—	180	学士 (音楽芸術学)	0.67	平成25年度	
	生活環境学部						0.94		
	生活マネジメント学科	4	70	—	280	学士 (生活環境学)	0.88	平成4年度	
	環境デザイン学科	4	80	—	320	学士 (生活環境学)	0.98	平成14年度	
	食環境栄養学科	4	80	—	320	学士 (生活環境学)	0.96	平成14年度	
	国際情報学部			3年次			0.79		
	国際情報学科	4	170	10	700	学士 (国際情報学)	0.79	平成24年度	
	人間科学部			3年次			0.80		
	現代子ども教育学科	4	120	5	490	学士 (人間科学)	0.79	平成14年度	
	多元心理学科	4	110	5	450	学士 (人間科学)	1.05	平成23年度	
コミュニティ福祉学科	4	75	5	310	学士 (コミュニティ福祉学)	0.47	平成24年度		
薬学部						1.03			
薬学科	6	150	—	900	学士 (薬学)	1.03	平成17年度		
看護学部						1.09			
看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.09	令和4年度		
金城学院大学大学院									
文学研究科									
国文学専攻 (博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士 (文学又は学術)	0.50	平成5年度		
英文学専攻 (博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士 (文学又は学術)	0.00	平成5年度		
社会学専攻 (博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士 (社会学又は学術)	0.50	平成5年度		
国文学専攻 (博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士 (文学又は学術)	0.70	昭和43年度		
英文学専攻 (博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士 (文学又は学術)	0.30	昭和42年度		
社会学専攻 (博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士 (社会学又は学術)	0.30	昭和63年度		
人間生活学研究科									
人間生活学専攻 (博士課程後期課程)	3	3	—	9	博士 (学術)	0.33	平成11年度		
消費者科学専攻 (博士課程前期課程)	2	8	—	16	修士 (消費者科学)	0.50	平成8年度		
人間発達学専攻 (博士課程前期課程)	2	8	—	16	修士 (人間発達学)	1.13	平成8年度		
薬学研究科									
薬学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.88	令和4年度		

附属施設の概要	<p>名称 金城学院大学葉草園</p> <p>目的 薬学教育の一環として、学生に薬用植物や生薬についての生きた知識を学ばせることを目的とする。</p> <p>所在地 愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地</p> <p>設置年月日 平成17年4月</p> <p>規模(面積) 1130㎡ (温室面積63㎡含む)</p> <p>(温室面積) 63㎡</p>	
	<p>名称 金城学院大学心理臨床相談室</p> <p>目的 大学院臨床心理士養成のための実習及び学部臨床心理学実習の場を提供するとともに、一般来談者を対象とする心理臨床相談を行い、地域社会へ貢献することを目的とする。</p> <p>所在地 愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地</p> <p>設置年月日 平成13年4月</p> <p>規模(面積) 601.26㎡</p>	

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要

（文学部総合歴史学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考							
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員						
共通教育科目	基礎教育科目	金城アイデンティティ	キリスト教学（1）	1前	○	2			○			1										
			キリスト教学（2）	1後	○	2			○			1										
			福祉とキリスト教	1後			2			○											1	
			聖書と現代社会	2前			2			○											1	
			キリスト教と文化	2後			2			○											1	
			聖書の女性観	1後			2			○											1	
			女性みらい	1前		1				○											1	
			世界の中の日本	1前		1				○			1								1	
			国際社会と社会問題	1後			2			○											1	
			Japanese Society and Culture A	1前			2			○											1	
			Japanese Society and Culture B	1後			2			○			1								7	
			小計（11科目）	—	—	—	6	14	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	0	0	0	11
			言語（英語）	英語コミュニケーションA	1前		1					○										1
	英語コミュニケーションB	1後			1					○										2		
	英語コミュニケーションC	2前			1					○										2		
	英語コミュニケーションD	2後			1					○										1		
	実践英語スキル入門	1後				1				○										1		
	小計（5科目）	—	—	—	4	1	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
	言語（外国語）	ドイツ語（1）	1後			1				○		1										
		ドイツ語（2）	2前			1				○		1										
		ドイツ語会話（1）	1前			1				○		1										
		ドイツ語会話（2）	1後			1				○		1										
		フランス語（1）	1後			1				○										1		
		フランス語（2）	2前			1				○										1		
		フランス語会話（1）	1前			1				○										1		
		フランス語会話（2）	1後			1				○										1		
		中国語（1）	1後			1				○										1		
		中国語（2）	2前			1				○		1										
		中国語会話（1）	1前			1				○										2		
		中国語会話（2）	1後			1				○										2		
		韓国・朝鮮語（1）	1後			1				○										2		
		韓国・朝鮮語（2）	2前			1				○										2		
		韓国・朝鮮語会話（1）	1前			1				○										3		
		韓国・朝鮮語会話（2）	1後			1				○										3		
	小計（16科目）	—	—	—	0	16	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6		
	情報	情報リテラシー	1前			2				○										1		
		デジタル表現技術	1前				2			○										1		
		Webデザイン	1後				2			○										1		
		ビジネスデータサイエンス基礎	1後				2			○										1		
		小計（4科目）	—	—	—	2	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
	教養	日本語表現の世界	1前				2			○										1		
		日本文学入門	1後				2			○										1		
		近代日本とアジア	1後				2			○			1									
		ローカル文化リサーチ	1前				2			○												
		日本国憲法	1前・後				2			○										1		
金融リテラシー		1後				2			○										1			
企業経営入門		1前				2			○										1			
企業会計入門		1後				2			○										1			
ビジネスと知的財産		1後				2			○										1			
健康美容の栄養学		1前				2			○										1			
健康とサプリメント		1後				2			○										1			
子どもの健康		1後				2			○										1			
女性と子どもの医学		1前				2			○										1			
心理学入門		1後				2			○										1			
カウンセリング入門		1前				2			○										1			
こころの哲学		1後				2			○		1											
環境学		1前				2			○										1			

		生活とアパレル	1前		2		○													1	
		クラシック音楽鑑賞	1前		2		○													1	
		ハンドベル奏法	1前		1			○												1	
		セルフブランディング入門	1後		2		○													1	
		大学での学び	1後		1		○				1									1	
		小計 (22科目)	—	—	0	42	0	—			1	2	0	0	0	0	0	0	0	17	
	スポーツ・エクササイズ	スポーツの理論と実技	1前・後		2		○													2	
		フィジカル・フィットネス	1前		1			○												1	
		メンタル・フィットネス	1後		1			○												1	
		小計 (3科目)	—	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
キャリア教育科目	キャリア開発	キャリア開発A	1前		2		○													1	
		キャリア開発B	2後		2		○													1	
		キャリア開発C	2前		2		○													1	
		キャリア開発D	2後		2		○													1	
		キャリア開発E	3前		2		○													1	
		小計 (5科目)	—	—	4	6	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	ビジネスリテラシー	経理入門と実務スキル	1前		2		○														1
		ファイナンシャルプランニング	1前		2		○														1
		ITとビジネス	1後		2		○														1
		カラーコーディネート基礎	1後		2		○														1
数的処理と論理的思考		1後		2		○														1	
キャリアプランニング基礎		2後		2		○														1	
キャリアプランニング応用		3前		2		○														1	
	小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	6		
プロジェクト	プロジェクトA	1通		2			○			1										1	
	プロジェクトB	1通		2			○				1										
	プロジェクトC	1通		2			○				1										
	プロジェクトD	1通		2			○													1	
	プロジェクトE	1通		2			○													1	
	プロジェクトF	1通		2			○													1	
	プロジェクトG	1通		2			○													1	
	プロジェクトH	1通		2			○													1	
	プロジェクトI	1通		2			○													1	
	プロジェクトJ	1通		2			○													1	
	小計 (10科目)	—	—	0	20	0	—			1	1	0	0	0	0	0	0	0	7		
グローバルキャリア	海外研修A	1・2・3・4前・後		2			○													1	
	海外研修B	1・2・3・4前・後		2			○													1	
	海外研修C	1・2・3・4前・後		2			○													1	
	海外研修D	1・2・3・4前・後		2			○													1	
	海外インターンシップ	1・2・3・4前・後		2			○													1	
	小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
各教科の指導法・高・高・栄養免許・教育の基礎的理解に関する科目	社会科・地理歴史科指導法A	2前			2	○														1	
	社会科・地理歴史科指導法B	2後			2	○														1	
	社会科・地理歴史科指導法C	2前			2	○														1	
	社会科・地理歴史科指導法D	2後			2	○														1	
	学校と教育の歴史	1前・後			2	○														1	
	教職入門	1前・後			2	○														1	
	教育社会学	2前・後			2	○														1	
	発達と学習	1前・後			2	○														1	
	特別支援教育の理論と方法	2前・後			2	○														1	
	教育課程論	3後			2	○														1	
	道徳教育の理論と方法	3前・後			2	○														1	
	総合的な学習の時間の指導法	2前			2	○														1	
	特別活動の指導法	3後			2	○														1	
	教育の方法及び情報通信技術の活用	2前・後			2	○														2	
	生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法	3後			2	○														1	
	教育相談	1前・後			2	○														1	
	教育実習A	4通			5				○											1	
	教育実習B	4通			3															1	
	教職実践演習 (中高)	4後			2		○													1	
	小計 (19科目)	—	—	0	0	42	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	13		

※実習

専門教育科目	基礎科目	日本史入門(1)	1前	○	2			○			1								
		日本史入門(2)	1後	○	2			○			1								
		アジア史入門(1)	1前	○	2			○			1								
		アジア史入門(2)	1後	○	2			○			1								
		西洋史入門(1)	1前	○	2			○				1							
		西洋史入門(2)	1後	○	2			○				1							
		小計(6科目)	—	—	12	0	0	—			2	1	0	0	0	0	0	0	0
	基幹科目	地域史研究科目群	日本史概論A	1前			2		○			1							
			日本史概論B	1後			2		○			1							
			アジア史概論A	1前			2		○				1						
			アジア史概論B	1後			2		○				1						
			西洋史概論A	1前			2		○				1						
			西洋史概論B	1後			2		○				1						
			日本史各論A	2前			2		○			1							
			日本史各論B	2後			2		○			1							
アジア史各論A			2前			2		○			1								
アジア史各論B			2後			2		○			1								
西洋史各論A			2前			2		○			1								
西洋史各論B			2後			2		○			1								
地域文化概論			1前			2		○			1								
地域文化各論			2後			2		○			1								
小計(14科目)	—	—	0	28	0	—			4	2	0	0	0	0	0	0	0		
トプロジェクト群		歴史文化研修A	1後			2				○	1								
		歴史文化研修B	1後			2				○		1							
		歴史文化研修C	1後			2				○		1							
		小計(3科目)	—	—	0	6	0	—		1	2	0	0	0	0	0	0	0	
実践教養科目群		文化人類学概論	1後			2		○			1								
		文化人類学各論	2前			2		○			1								
		地域情報学	3前			2		○										1	
		建築史研修	1前			1				○								1	
		フィールドワーク研究	1前	○	2			○			1								
		フィールドワーク実習	2通			2				○	1								
小計(6科目)	—	—	2	9	0	—		1	0	0	0	0	0	0	2				
資格関連科目群		宗教学概論	1後			2		○			1								
		宗教学各論	2前			2		○			1								
		社会学概論	1前			2		○										1	
		政治学概論	1後			2		○										1	
		考古学概論	1後			2		○										1	
		人文地理学	1後			2		○										1	
		地誌学概論	1前			2		○										1	
		地誌学各論	3後			2		○										1	
		自然地理学	2前			2		○										1	
		生涯学習概論	2前			2		○										1	
		博物館概論	1前			2		○										1	
		博物館経営論	3前			2		○										1	
		博物館資料論	1前			2		○										1	
		博物館資料保存論	2前			2		○										1	
		博物館展示論	2前			2		○			1								
		博物館教育論	3後			2		○										1	
		博物館情報・メディア論	3前			2		○										1	
		博物館実習(1)	3通			2				○	1								
		博物館実習(2)	4通			1				○	1								
		世界遺産研究	3後			3		○										1	
小計(20科目)	—	—	0	40	0	—			2	0	0	0	0	0	0	11			
展開科目	史料講読科目群	日本史史料講読A	2前			2			○		1								
		日本史史料講読B	2後			2			○		1								
		アジア史史料講読A	2前			2			○		1								
		アジア史史料講読B	2後			2			○		1								
		西洋史史料講読A	2前			2			○			1							
		西洋史史料講読B	2後			2			○			1							
		古文書学	1後			2			○		1								
		アーカイブズ研究	1後			2			○			1							
		史料調査方法論	3前			2		○				1							
		小計(9科目)	—	—	0	18	0	—			3	2	0	0	0	0	0	0	

集中

集中

授 業 科 目 の 概 要

（文学部総合歴史学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	基礎 教育 科目	金城 アイ デン テイ テイ	キリスト教学（1）	○	金城学院大学はキリスト教の精神を基盤として建てられた学校である。それゆえにキリスト教を学問として学ぶことが必修となっているのであるが、本授業では、プロローグとしてキリスト教と金城学院との関係を知るところから始め、宗教と文化の関係、そしてキリスト教の正典である『聖書』の内容へと進む。旧約聖書も新約聖書もキリスト教の核となる要点を中心に進める。金城学院の建学の精神を担う「キリスト教」とはどのような宗教なのか、またその「正典」である『聖書』は何をつたえようとしている書物なのかに関して、基礎的な知識を身につける。	主要授業科目
			キリスト教学（2）	○	「キリスト教学(1)」の継続授業として後期に展開する。授業は、キリスト教の歴史にそって講義を進める。キリスト教の成立（原始キリスト教会）から中世の教会、宗教改革による教会の転換期を経て近代、現代へと展開し、歴史上の出来事とともに各時代の主要な神学者とその思想も考察する。2千年前の成立から現代に至るキリスト教の歴史を知ることによって、キリスト教が世界史にどれほどの重要な影響を及ぼしてきたのか、また日本にどのような影響を与えているのかを理解する。	主要授業科目
			福祉とキリスト教		なぜ「福祉とキリスト教」について学ぶのか。それは、キリスト教が日本で受容されるうえで、「教え」の伝道と共に、医療に加えて福祉実践も重要な役割を果たしたからである。この講義では、「キリスト教社会福祉とは何か」を皮切りに、カトリックの慈善事業、プロテスタントのソーシャルワーク、子ども・家庭福祉の発展とキリスト教、高齢者福祉の発展とキリスト教、セツルメント・地域福祉とキリスト教、障害のある人の福祉の発展とキリスト教、ハンセン病とキリスト教、貧しい人とキリスト教などについて講義する。	
			聖書と現代社会		聖書と現代社会の授業では、聖書の教えが今日の社会にどのように影響を与えているかを探求する。授業では、倫理的価値観、道徳的指針、そして文化的影響を通じて、聖書が人々の日常生活や社会的な意思決定にどのように組み込まれているかを分析する。また、聖書の物語が現代の法律、政治、教育、芸術にどのように反映されているかも考察する。授業を通じて、学生は批判的思考を養い、多様な視点から聖書のテキストを読み解く能力を高める。	
			キリスト教と文化		キリスト教文化とは何か。教義や欧米におけるキリスト教の歴史、発展を学ぶ。後半は主に日本のキリスト教に影響を与えたアメリカのキリスト教やフェミニスト神学等について学ぶ。授業は2部形式で実施し、授業の初めにアメリカ公民権運動のビデオを視聴し1950年～60年代の黒人差別と教会の働きを学ぶ。その後、授業計画に沿って講義を進める。キリスト教の教義や歴史的発展過程が、どのような文化を形成しているかを理解し、キリスト教文化についての知識を深めることで、今日の社会問題や国際政治問題への視点を養う。	
			聖書の女性観		『聖書』には、神が導く歴史を生きてきた女性たちの生き様が男性たちの生き様と同様に記録されている。しかしどの時代も『聖書』を教え伝える担い手が男性であった故に、女性について語られることは二次にされてきた。この授業では、旧・新約聖書に記録されている女性たちに目を向けて、彼女たちがどのように生きたのか、神による人類救済の歴史にどのように参与してきたのかを考察する。キリスト教の「正典」である『聖書』の全編を通して、どのような女性観を持っているのか、個々の女性達の物語を通して『聖書』が示す「神の救済史」の全体像を理解する。	
			女性みらい		特定のライフステージにおいて、多くの女性が遭遇すると予測される問題（身体的課題・心理的危機など）を取り上げ、その知識を基に、各ライフステージにおける様々な問題に直面しながら、女性がどのように問題解決していくことが望ましいのか、自分自身の将来ビジョンと照らし合わせて考察できるよう教授する。ライフステージごとの身体的課題と心理的危機とを理解し、それらへの対処方法を身につけて実践できる能力を身につける。	
			世界の中の日本		金城学院大学の国際理解の理念から、日本社会や国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。授業では、ゲストスピーカーを招き、本学における国際理解の位置づけを理解した上で、どのような国際交流が展開されているか、現地の状況も紹介しながら学んでいく。日本・世界の諸地域を事例として取り上げ、世界各地の多様な文化や日本の多文化社会について理解を深めることで、受講生が広い視野を持つことができることをめざす。	

	国際社会と社会問題	惑星規模で広がる現代の様々な社会的イシューや社会問題について、従来の講義形式に豊富な映像資料を結びつけ、初学者にも分かりやすい導入的なレクチャーを行う。具体的には環境問題、気候変動、ジェンダー、人種、エスニシティ、社会的不平等（貧困）、南北格差、経済開発、政治的権威主義、戦争（内戦）といった事柄がテーマとなる。この講義の受講者は、惑星規模で世界が経験する、分断と紛争に満ちた現代社会のあり様について、歴史的・現代的な視点から概要を理解できるようになる。	
	Japanese Society and Culture A	日本と世界の社会問題を取り上げ、現代社会に対する理解を深める。授業は原則として英語で行うが、必要に応じて日本語でも説明や資料提供を行う。社会学の視点から、貧困問題、差別問題、労働問題、社会運動、都市政策、資本主義などのトピックを取り上げ、日本や世界の社会構造、文化的慣習、政策の背景について学ぶ。授業形式は講義やケーススタディや映像資料などを組み合わせた授業を行う。日本社会の多様な側面を学び、グローバル化における重要な社会問題について考察する力、日本の社会と文化に対する包括的な理解を促す。	
	Japanese Society and Culture B	日本文化と外国文化を比較することで、多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養を身につける。授業は原則として英語で行い、必要に応じて日本語でも説明を加える。学生には基本的なリスニングおよびライティングの英語スキルを求め、各回講義だけでなく、授業内容に沿ったレポート作成を英語で課す。日本のライフスタイル・文化・言語、宗教などの様々な要素を説明できる能力、日本文化と生活を他国と比較分析し、理解するための視点を養うことを目標とする。様々な専門分野の視点からオムニバス授業として複数担当者で講義する。 (オムニバス方式/全14回) (32 PALLER, Daniell./2回) 食文化 (34 ASHUROVA, Umidahon/2回) 移民政策 (36 尾崎志津子/1回) インターネット英語 (33 畠山正人/2回) 地方文化・ライフスタイル (35 中村健司/2回) 企業文化・労働観 (4 桑原牧子/2回) 思想・精神 (28 松谷暉介/1回) 宗教文化 (27 吉松純/2回) 美意識	オムニバス方式
言語 (英語)	英語コミュニケーション A	リーディング、リスニングを中心に英語の基礎について学習を進め、基礎を固めることを目標とする。英語でEメールを書くうえでの基礎も学修する。「英語コミュニケーションB」による授業に備えた準備も行なう。また、授業外で円滑に自主学習を進められるように指導する。授業では、基本的な日常英会話をすることができる、日常生活を話題にした英語の短い文章を書くことができる、英語による短いプレゼンテーションをすることができるようになることを目指す。	
	英語コミュニケーション B	日常生活や海外旅行に必要な場合に英語での意思疎通ができるようにスピーキング、ライティングの訓練を行なう。学生は基本的な語彙と文法を習得し、実用的な英会話スキルを磨く。日常生活や旅行先での様々なシチュエーションを想定したロールプレイを行い、実践的なコミュニケーション能力を養う。授業では、基本的な日常英会話を正しく聴き取ることができる、英語の基本的な発音が正しくできる、英語の基本的な文法や構文に関する知識を身につけた上で、平易な英文を日本語に訳すことなく読むことができるようになることを目指す。	
	英語コミュニケーション C	学生が英語で自信を持ってディスカッションやプレゼンテーションを行う能力を養うことを目的とする。実践的な練習を通じて、学生は英語でのコミュニケーションスキルを高め、グローバルな環境で活躍できる力を身につける。授業では、日常英会話、および英語による簡単なディスカッションに参加することができる、プレゼンテーションのための原稿を英語で書くことができる、英語でまとまった内容のプレゼンテーションをすることができるようになることを目指す。	
	英語コミュニケーション D	リーディング、リスニングを中心に英語を理解する力を確実なものにすることを目指す。また、英語の文章構成を学び、論理的にまとまった文章を書く力を養う。イントロダクション、ボディ、コンクルージョンの基本構成を理解し、実際に文章を書く練習を行う。まとまった内容の短い文章が英語で書けるようになるよう指導する。授業では、まとまった内容の平易な英文を正しく聴き取ることができる、各学科の専門教育に関連した基本的な英語の語彙を理解することができる、各学科の専門教育に関連した平易な英文を正しく読むことができることを目指す。	

	実践英語スキル入門	英語の基礎力向上を目指し、リスニングとリーディングのスキル強化を目的とする。具体的には、基本的な文法の復習、重要な語彙の習得、短い文章の理解、日常会話の聴き取り練習を行う。授業では、実践的な演習や模擬試験を通じて、英語のコミュニケーション能力を養い、英語に対する自信を高める。自己表現力の向上を目指し、基礎から応用まで幅広く学ぶ。英文法の知識がより確実なものになるように授業外での訓練も積極的に行う。	
言語 (外国語)	ドイツ語(1)	ドイツ語の初級レベルの基本的な文法理解を目指す。ドイツ語は、EUヨーロッパ連合で最大の話者数(9,000万人以上)を誇る言語であるばかりでなく、英語の姉妹語であり、両者の基本的な文法構造と重要基礎語彙はかなり似ている。このことから、本授業では、教科書に沿ってドイツ語の初級文法をできるだけ英語と比較対照しながら学習を進めるとともに、ドイツ語圏諸国の文化紹介をビデオ等の補助教材を用いて、ドイツ語の基礎と簡単な文化を学ぶ。	
	ドイツ語(2)	ドイツ語の初級文法の学習をできるかぎり英語のそれと比較対照しながら進める。あわせて、教科書に載っている練習問題を数多くこなすことにより、ドイツ語の作文力を確実に身につけて向上させていく。また、「ドイツ語(1)」に引き続き、ドイツ語圏諸国(ドイツ以外にドイツ語を公用語としているオーストリアやスイス等の中欧の国々を含む)の文化紹介をビデオ等の補助教材を使って行うことで、ドイツ語文法の基礎と文化を学ぶ。	
	ドイツ語会話(1)	ドイツ語会話の入門授業である。すなわち、日常会話程度の基礎的なドイツ語コミュニケーション能力を総合的に養成する。例えば、ドイツ語圏の国々に旅行する際、簡単な会話を通して、ドイツ語で意思疎通ができるようなドイツ語の運用能力を身につける。取り扱う会話単位としては、発音練習、人と知り合いになる上での挨拶や自己紹介の仕方、簡単な日常会話、気持ちを伝えるための簡単な意思表示の仕方、など、基本的な会話を中心である。	
	ドイツ語会話(2)	「ドイツ語会話(1)」で習得したドイツ語会話力をさらに高めることを目的とする。すなわち、簡単な会話を通して、ドイツ語で意思疎通ができるようなドイツ語の運用能力を身につける。「ドイツ語会話(1)」同様、ネイティブスピーカーの教師のもとで学ぶことの有利性を活かし、会話を中心にドイツ語の総合的運用能力のさらなる育成を目指す。取り扱う会話単位としては、「趣味について」、「食事について」、「家族について」、「時刻と日付」などである。	
	フランス語(1)	フランス語の発音の仕方を覚えるとともに、フランス語の骨格となる初級文法を学習し、簡単な文による意思疎通ができるようになることを目指す。「フランス語(2)」へと続く一年間の授業の前半であることから、初めてのフランス語に慣れることと、語学学習を継続するための基礎を固める。教科書に従ってフランス語の基本的な文法を解説し、パターン練習を繰り返す。授業では特に、まずつづり字をフランス語風に読めるようになることから始める。	
	フランス語(2)	「フランス語(1)」からの一年間の授業の後半である。引き続きフランス語の発音の仕方を覚えるとともに、簡単な文による意思疎通ができるようになるため、フランス語の骨格をなす初級文法を学習する。ついては、フランス語の基本を体系的に理解するとともに、知識をゆっくり確実に身につけて使いこなせるようにする。学習のため、実用フランス語技能検定5級の過去問等をのぞいてみたり、有名なシャンソンを聴いてみたりと、ヴァリエーションを広げて授業を進める。	
	フランス語会話(1)	基礎的なフランス語会話を学習して、フランス語でコミュニケーションする態度を育てるのが本授業のねらいである。日常的なフランス語に触れながら、ペアでの発音練習や、教師との対話を通して、正しい発音ができるようにする。フランス語の発音に慣れ、基礎的な表現や語彙にもとづいた運用をすることができ、基礎的な文法や日常生活に必要な言い回しを覚えることで、幅広く実践的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。	
	フランス語会話(2)	日常的かつ基本的なフランス語会話を学習する。挨拶の仕方や自己紹介の仕方を対話形式で練習するが、一番の目的としてはフランス語に親しむことに重点を置く。授業の中では、何をしているかを尋ねたり、場所を尋ねたり、あるいは「家族を語る」対話練習など、身近な会話を練習を繰り返して行う。また、文法として疑問文の作り方、否定文の作り方、否定疑問文の応答などについても具体例を交えながら学ぶことで、コミュニケーション能力を身につけていく。	
	中国語(1)	中国語の基本文型を学習し、文を正しい順序で作ることができるようにする。また文法に基づきながら、中国語の簡単な会話文を理解できるようにする。特に初級者を対象とするため、まず教科書にしたがって発音練習を行う。その後、中国語の基本文型を学習しながら、単語の入れ替え練習などで文法を習熟させる。また、教科書の会話に基づいて、簡単な自己紹介ができるようにする。そのほか、授業を通して中国語文化に関しても紹介し、中国語を広い視点から理解できるようにする。	

	中国語（2）	教科書本文の反復練習により、単語に習熟し、基礎文法を学習する。また、「中国語(1)」で学習した発音をチェックし、正しい発音で中国語が読めるようになっていない場合は、正しい発音の練習を行う。その上で、基本単語の習熟と基礎文法の学習に努め、教科書本文の会話を使って簡単な日常会話に対応できるように、また、文を正しい順序で作ることができるようにする。前期同様、中国語文化についても授業の中で紹介をし、中国語を広い視点から理解できるようにする。	
	中国語会話（1）	中国語会話の入門として、まずはきちんとした中国語が話せるように発音に重点をおいて練習・学習を進める。ついては、母音、鼻母音、子音、音調、軽声、変調など、発音上の注意事項を説明し、中国語の発音が理解できるようにする。また、自己紹介を中心に、日常生活のさまざまな場面の会話（名前の読み方、物の尋ね方、年齢の読み方、曜日や日にちの読み方、場所の読み方、など）を練習する。そして、学習した文型を利用しながら、自分が話したい内容を中国語で表現できるように指導する。	
	中国語会話（2）	「中国語会話(1)」に続き、自己紹介を中心に、日常生活のさまざまな場面の会話を練習する。また、学習した文型を利用しながら、自分が話したい内容を中国語で表現できるように指導する。テキストには『一目瞭然中国語入門』を使用し、「あなたは何人家族ですか」「あなたはどんな趣味をお持ちですか」など、日常よくあるものを数多く取り上げて練習する。日常会話に直結した会話を覚えることにより、実際に使うことができる中国語の会話力を獲得する。	
	韓国・朝鮮語（1）	韓国は、日本から見て地理的に一番近い国であり、歴史的にももっとも密接な関係を持っている国である。韓国の文字であるハングルの歴史と創製原理を基本から学び、韓国・朝鮮語の言語的特徴とその構造を日本語と比較しながら学習を進める。文字の読み方・つづり方及び発音規則等の基礎を固めるとともに、言葉を通じて韓国人とその文化に対する理解を深めていくのが本授業の目的である。文化紹介などヴァリエーションを広げて授業を進める。	
	韓国・朝鮮語（2）	発音の復習、発音規則の確認など、「韓国・朝鮮語(1)」で学習した内容の復習から始め、さらに韓国語の基礎文法に対する知識を学習し、簡単な文による意思疎通ができることを目指す。また、韓国の歴史や文化に関する話題も豊富に取り入れ、言葉の根底にある歴史的伝統や文化的背景に対する理解も深めていく。あわせて、発音規則に沿ったセンテンス読みの練習をしながら、基礎的な文法に対する正確な知識習得と基礎語彙を学習する。	
	韓国・朝鮮語会話（1）	教材として韓国のテレビドラマを使い、挨拶・自己紹介・買い物などの日常生活に必要な表現や決まり文句などを、まずは文字から離れて耳と口で覚えていく。大きい声で繰り返して発音することによって、頭の中で言葉を組み立てるのではなく、自然に口から言葉が出てくるように繰り返し練習する。その過程の中で、文字や文法に対する基本知識も身につけるとともに、ドラマを通して韓国人の慣習、文化、生活感覚に対する理解を深める。	
	韓国・朝鮮語会話（2）	教材として韓国のテレビドラマを使い、挨拶などの日常生活に必要な表現や決まり文句などを、文字から離れて耳と口で覚えていく。「韓国朝鮮語会話(1)」と同様、大きい声で繰り返して発音することによって、頭の中で言葉を組み立てるのではなく、自然に口から言葉が出てくるように繰り返し練習する。授業に中での会話練習では、願望・依頼・勧誘・許可・禁止・好き嫌い・可能・義務・意図・推量・後悔といった各表現の仕方を学ぶ。	
情報	情報リテラシー	高度に情報化の進んだ現在、私達はさまざまな情報やデータ、AIなどの技術が活用された社会の中で生活している。これらは正しく利用すれば生きていくうえでとても役立つ知恵を与えてくれるはずで、そのためには情報やデータに関する基本を学ぶ必要がある。本授業では数理・データサイエンス・AIについての基礎的な学習を行いつつ、パソコンの基本としてのワープロ機能・表計算機能・プレゼンテーション機能の基礎的な学習も行う。さらに情報倫理を身につけたり、タイピングスキルの向上も目指す。	
	デジタル表現技術	デジタル技術を活用した表現手法を幅広く学ぶことを目的とする。授業では、画像編集、動画制作、Web制作など、マルチメディアを用いた情報発信技術を総合的に学習し、それらの技術を習得する。プロジェクト等を通じて自身のアイデアをデジタル作品として形にすることで、創造力と技術力の両方を向上させる。作品へのフィードバックを行うことにより、デジタルコンテンツ制作の基礎から応用までの技術を学ぶだけでなく、その活用方法までを学ぶ。	
	Webデザイン	現代の重要な情報発信の手段になっているWebの仕組みを基礎から理解し、実習を通じてWebサイトの制作技法を習得する。具体的には、Webデザインに必要な基本的なルールやコーディングの方法を学習し、実際の制作のフローに沿ってWebサイトを制作することにより、HTML・CSSの実践的な使い方を習得する。その他にもサイトの公開や運用に関する知識までを身につけることにより、自分でサイトの開設ができるようになる。	

	ビジネスデータサイエンス基礎	データを活用して適切な意思決定を行うための基礎的な方法を学ぶ。授業では、標準化された大量データを統計的に分析する手法を習得し、ビジネス上の課題や傾向を数値的に解説する能力を養う。また、インタビューや観察などの手法を用いて、人々の意見や感情を定性的に分析し、新たな価値や洞察を得るスキルも身に付ける。さらに、オープンデータの活用やデータの倫理についても掘り下げ、具体的なビジネス事例に触れながら、将来のビジネスリーダーを育成するための土台を築く。	
教養	日本語表現の世界	日本語の表現力の向上と、読む人にとってより分かりやすい作文が書けるようになることを目標とする。具体的には、文章が分かりにくくなってしまいう原因として、時制の問題や視点の問題、文と文との関係について意識を向けて文章を読み、それをまねることで文章力の向上を目指す。また、上級レベルの文型についても取り上げて、多様な表現を使いこなす力も養う。授業内でのトレーニングを併用することにより、日本語の表現力向上を目指す。	
	日本文学入門	日本文学を通史的に概観しつつ、日本文学に関する基礎的問題について解説する。具体的には明治より以前の時代において、すでに1000年以上の歴史をつむいできた古典文学を重視し、奈良・平安・鎌倉・室町・江戸と時系列に沿って、各時代の著名な作品をピックアップする。また優れた作品が生み出された歴史的背景や時代性に注目することで、古典への理解をより深めることができることから、古典文学への歴史的アプローチを大切にす。	
	近代日本とアジア	近代日本を、戦争史を中心に考察を進める。近現代日本の戦争の歴史とその背景などについて、アジアを例に読み解く。具体的には、日清戦争から第二次世界大戦の終結までを戦争・兵士・アジアの観点から読み解いていく。近代日本の戦争に動員された人々について、多面的に検討、考察を進めることで、戦後の日本社会やアジア周辺諸国との関係・交流についても戦争と関連づけて検討することができる。日本とアジアの関係を歴史を通して理解することができる。	
	ローカル文化リサーチ	座学として、町の歴史的な特性を把握し、その上で、名古屋市もしくはその周辺地区の抱える課題について、ゲストスピーカーを招き考察する。各論としては、具体的な地区を想定して、その地区の歴史や課題を整理するとともに、フィールドワークの具体的手法を学習する。そして、実際にその地区の詳細についての現地調査を踏まえた上で、あるべき姿をグループでの議論（ワークショップ形式）を通して整理する。最終的には名古屋とその近隣地区の魅力向上についての提案を行う。	
	日本国憲法	憲法には、各種の基本的な人権と政治の基本的枠組みが定められている。そこには、その国のそれまでの歩み（歴史）が反映されていると同時に、将来に向けた決意（目指すべき姿）が示されている。このことを意識しながら、重要条文を取り上げて日本国憲法についての理解を深めていく。また、憲法は私たちの暮らしを支える土台となるものであるため、日々の生活と憲法との関わりについても、身近な事例を幅広く紹介しながら学んでいく。	
	金融リテラシー	日常生活で直面する金銭に関する疑問や生活するうえでの必要となる知識の習得を目指す。具体的には金銭管理や運用などの課題に焦点を当て、予算の立て方、節約術、緊急時の資金作り、賢い消費者としての行動指針など具体的な方法を学ぶ。また、金融商品についての学びを盛り込み、学生に適した財政管理だけでなく、生涯にわたる資産形成にも役立つものとする。自立に向けた経済的な基盤作りをサポートし、実生活への応用を目指す。	
	企業経営入門	企業経営に必要な基本的知識を学ぶ。内容としては企業経営の知識体系全般をカバーする。具体的には、株式会社の仕組み、資金調達の方法、経営戦略、マーケティング、人的資源管理、技術経営、ベンチャー企業の特徴などである。これらの経営に関する基本知識をより深く理解するために、成功・失敗事例などを用いて解説する。また、これらの企業経営に関する知識を活用したビジネスプランの作成なども行い、授業の中でプレゼンテーション等を実施する。	
	企業会計入門	企業会計は、企業の経済活動を貨幣価値で表現するための仕組みである。私たちは、企業の財務諸表を見ることによって、企業の事業活動の状況を理解することができる。また、経営者が達成すべき数値目標や、企業経営の効率性を測定する指標となりうるものでもある。本授業において学生は、企業における会計の基本的な考え方と財務諸表の見方・分析方法を学ぶ。これらの会計の基本知識をより深く理解するために、実際の財務諸表を用いて解説する。	

ビジネスと知的財産	企業や個人が生み出した優れた知識や情報は、ビジネスを展開するうえで非常に重要な資産となっている。こうした知識や情報は「知的財産」として法的保護が与えられることがあり、ビジネスを継続して発展させる仕組みの一つとして企業や個人に広く活用されている。授業では、実際の企業のヒット商品の事例を用いて、特許、商標、著作権などの知的財産権を基本から学習する。また、基本的財産権を理解したうえで、企業や個人がどのように知的財産制度を活用しているのかを学ぶ。
健康美容の栄養学	心身の健康は見た目だけではなく人としての美しさ（健康美容）を保持増進するために必要である。授業では健康の基礎となる成長・発達・加齢に伴うライフステージを学び、ステージで異なる身体機能の変化や、生活習慣、栄養素摂取の特徴を習得する。ライフステージに適した健康美容の在り方を考え、自身の食生活や栄養摂取の課題を見出し、解決できる策を見出す。授業で習得した栄養管理方法を用いて、自身の健康だけでなく周囲のものに配慮するための方法を学ぶ。
健康とサプリメント	近年、サプリメントなど、いわゆる健康食品の利用が拡大している。健康における栄養素や食品成分の機能について解説し、栄養バランスのとれた食事習慣の重要性、必要に応じたサプリメントの使い方を紹介する。また、生活習慣病、とくに肥満について栄養・運動の関わりやその予防策を学ぶ。健康管理のための栄養素および機能性食品素材について理解し、サプリメントに関する正しい使い方、継続的に健康な生活を送ることの重要性を理解する。
子どもの健康	子どもの健康にまつわる課題を包括的に学び、よき支援者としての理解、判断力、子どもに関わる場面で実際に役立つアプローチを身につけることを目指す。授業では、乳幼児から思春期までの発達段階における特有の問題を取り上げて、適切な対応を考える。最新の統計や研究データを参照し、体（解剖）、運動、怪我、栄養、睡眠、心理などのテーマを掘り下げ、子どもが健康的な生活をし、それを習慣にするための支援について議論する。
女性と子どもの医学	女性のライフサイクルに関連する健康課題（妊娠、出産、更年期など）と女性特有の病気、さらには子どもの発達と病気について学習する。授業では、日常での健康管理方法や予防接種に関する内容（小児期の一般的な病気や予防接種のスケジュールなど）について具体的な例を示しながら、初心者にも分かりやすい内容で解説する。日常生活や将来の家族計画に役立つ知識と健康管理や病気予防に関する実用的な知識を身につけることができる。
心理学入門	広く学問としての心理学を理解し、心のメカニズムについて、基礎的な知識の習得を目指す。授業期間をゾーンに分け、前半は基礎心理学として、脳のメカニズムや認知、比較心理学などについて概要を説明する。後半は、対人関係に関する心理として、社会心理学や教育心理学・臨床心理学など、人間の行動の基礎とその応用、心理学が関連する職業などについて解説する。いずれも心理学の基礎を説明するにとどまるので、授業時間外での自主学習を重視する。
カウンセリング入門	カウンセリングおよび心理療法の基本を理解するとともに、自己理解を深めることを目標とする。授業期間をゾーンに分け、前半は心理療法の基礎知識として、精神分析的心理療法、来談者中心療法、認知行動療法、遊戯療法など、代表的な立場の心理療法について解説する。後半は、架空事例の概説や映像教材の鑑賞を通して、座学で学んだ内容をより深く理解することを目標とする。前半と後半に、それぞれ1単元ずつ実施するワークからは自ら取り組み、気づきを得る体験に繋げる。
こころの哲学	東アジアの伝統哲学の視点から自分のこころを分析し、豊かな人間性を育むことを目的とする。授業では、まずヨーロッパと東アジアの哲学史の流れを紹介し、それぞれの世界観と人間観の特徴について考える。その上で、こころに関わる「心」「性」「情」「徳」などをキーワードとして、中国や日本でこころをどのように位置づけてきたかを明らかにする。現代とは異なる世界の見方を知ること、自分のこころを捉え直すことができることをめざす。
環境学	地球環境の悪化は年々深刻になりつつある。私たちが地球上で生活しているためには、何をすべきか。また、私たちの生活に密接にかかわっている「衣・食・住」においては、環境依存度が非常に高く、環境問題と切り離すことはできない。地球にやさしい生活を実行するため、あらゆる領域で環境への負荷を低減する努力が最近急速に進んでいる。授業では、衣食住の中で、とくに「衣」についての環境問題を取り上げ、その現状と対策を具体的に学習する。

	生活とアパレル	アパレルは、衣服を意味する。衣服は人間にとって最も身近な物であり、第二の皮膚ともいわれている。そのため、心地よい衣生活を送るためには素材の物性・意匠・管理方法など、多面的に考える必要がある。本講義の前半では、着衣時の衣服を構成する要素や人間に与える影響、着用場面に応じた衣服の選択、素材にあった手入れ方法の選択などを概説する。後半では、アパレル産業の仕組みと課題、これからの社会が求める衣服について講義する。とくに、e-テキスタイル、スマートテキスタイルといった着るだけで心拍や呼吸数、筋電等の生体データを取得できる衣服、エコフレンドリーな繊維などを取り上げ、より美しく、より快適で、より環境に優しい衣服について学ぶ。	
	クラシック音楽鑑賞	音楽のなかでも様々な感情を呼び起こすと言われているクラシック音楽。それぞれの曲の背景や、作曲家の人生を学び、より深く曲を聴くことが出来るよう準備し、その音楽を鑑賞する。こころの動きである、「怒り」、「悲しみ」、「愛」、「心の平穏」など、その感情を引き起こす音楽を複数比較して聴く事により、時代の違いや、作曲家個人の表現を認識し、幅広いクラシック音楽のスタイルを学ぶ。クラシック音楽の本質を学ぶことにより、これからの生活を豊かにすることができる。	
	ハンドベル奏法	ハンドベルによる演奏を実技形式で行う。ハンドベルという楽器の仕組み演奏方法を基本から学習・理解し、楽器の特性を通してメンバーひとりひとりの存在を尊重すること、協調性、コミュニケーションの大切さを学ぶ。また、協力して曲を仕上げていく過程を実際に体験することにより、発表の場で表現する達成感へと繋げる。ハンドベルという特有の楽器を通して、演奏することのすばらしさだけでなく、音楽そのものの楽しさを理解し、他者に説明できる力を養う。	
	セルフブランディング入門	何気ない日常での動作や話し方のなかでも、相手に好印象をあたえられる人物になることを目指す。具体的には、身だしなみ、マナー・所作、言葉遣い、会話力・傾聴力、ビジネス場面での対応力などの対人関係スキルの向上と、SNS上でのマナーやトラブル事例、ハラスメント、多様性など、現代社会で必要とされる問題について学ぶ。これらの基本概念や実践方法を学ぶことにより、自分の魅力や特性を見つめ直し、自ら行動できる力を養う。	
	大学での学び	大学入学前の高校生を対象とした科目であり、「大学で学び」と題して、高校生が入学を希望する学部学科ごとの入門的・概要説明の授業を展開する。授業は当該学科の学びの概要を体系的に説明する。また、実際に学習を体験する機会を設け、具体的なイメージを与える。入学前に学習すべき内容を理解できること、入学後の学習イメージができることにより、入学後のミスマッチを防止する効果がある。また、入学後の学修への導入的な役割を期待する科目でもある。	
スポーツ・アンド・エクササイズ	スポーツの理論と実技	スポーツの基礎的な理論と実技の学びを通して、生涯にわたって健康的・文化的に様々なスポーツを実践することへの理解を深めます。理論の授業では、スポーツ科学や体育理論の観点から、スポーツ実践の意義や効果、文化としてのスポーツの意義等を理解する。実技の授業では、ゴール型やネット型球技などのチームスポーツの実践を通して、運動スキル、戦略を考える力、スポーツマンシップ、協調性などを身につけ、体力と健康を維持する。	講義 11.7時間 実技 11.7時間
	フィジカル・フィットネス	スポーツや身体運動の実践は、ココロだけでなく、カラダや生活にも良い影響をもたらします。この授業では、スポーツ科学の基礎的な理解に基づき、スポーツや運動の実践がみなさんのカラダや生活に及ぼす影響を、運動の実践を通して理解するものです。具体的には、様々なスポーツやフィットネス種目の継続的な実践が、自身の筋力や持久力、柔軟性、疲労耐性、健康に生活する力などに結び付くことを、運動するカラダを通して理解します。	
	メンタル・フィットネス	スポーツや身体運動の実践は、カラダだけでなく、ココロや生活にも良い影響を与える。この授業では、スポーツ科学の基礎的な理解に基づき、スポーツや運動の実践がココロや生活に及ぼす影響を運動の実践を通して理解する。具体的には、様々なスポーツやフィットネス種目の継続的な実践が、自身の気分や自己肯定感、自信、健康に生活する力などに結び付くことを、体を実際に動かすことから学ぶ。運動とココロの関係を理解し、スポーツとの向き合い方を考察する。	
キャリア教育科目	キャリア開発A	大学時代はキャリアの基礎をつくる重要な時期である。入学直後にキャリア開発の重要性を知り、これからの大学生活で身につけたい能力や知識などを考える。自分らしい生き方についてのイメージを明確にするために、キャリアアセスメントを実施し、多面的に自己分析を行う。また、働く環境を知るために、業界や職種、組織に関する基礎知識、ダイバーシティ推進など職場の課題について学ぶ。そして、10年後のマイキャリアビジョンを作成し、発表を行う。	

	キャリア開発B	ビジネスシーンで求められるマナーやコミュニケーションを、実践を通じて習得することを目的としている。印象管理やスマートな身のこなし、望ましい言葉遣い、効果的なコミュニケーション・ツールの活用の仕方などを学ぶ。そして、自分の考えを分かりやすく伝えることや、傾聴することを実践する。また、様々な職務を行う際に必要な基本的な問題解決力や思考力を、ディスカッションやグループワークを行うことにより経験的に学習する。	
	キャリア開発C	大学を卒業後、多くの人が組織内で職業人としてキャリアを発展させる。本授業では、入社直後の新入社員から部署をまとめるリーダーになるまでに直面するキャリア上の課題を考える。それぞれの課題に関わるキャリア心理学理論、人的資源管理の基礎、課題に対処するために必要なスキルなどを学習する。また、管理職などリーダー役割を積極的に担うことを求められることも多いので、女性が職場で活躍するために必要なリーダーシップについて学ぶ。	
	キャリア開発D	「仕事と私」をテーマに、様々な仕事の領域で活躍している卒業生をゲストスピーカーとして招き、実体験を通じた講演を中心とした授業である。これまで講演をしていただいた方々は、メーカー、金融、建築、商社、運輸、ホテル、福祉、人材派遣、コンサルティング、公共団体などの分野で活躍している。具体的な就職活動や就職のきっかけ、仕事の喜び、やりがい、苦労したことなどを、受講者の先輩として、また同性として率直に話をしてもらって臨場感あふれる学びの場である。	
	キャリア開発E	東海地区の大企業を中心とした約10社より、社長あるいは社長経験者の方をゲストスピーカーとして招き、「キャリアの本当の意味」をテーマに展開する授業である。事前に、客員教授の所属する企業や業界について学生が各自で調査をして、基礎知識を持ったうえで講義に臨むようにする。また、客員教授の登壇がない授業回では、ビジネスの基礎知識や、社会人として知っておきたい用語などについて解説を行い、社会人になる準備を整える。	
ビ ジ ネ ス リ テ ラ シー	経理入門と実務スキル	簿記の基本原則と実用的な技術の習得を目指す。具体的には、仕訳の入力方法や帳簿の記録方法、財務報告書（バランスシート、損益計算書等）の作成技術について詳しく解説する。授業では、これらの原則と技術を実際の商取引の例を通じて学び、経理業務の実務経験を積むための演習を行う。簿記の知識は、日常生活での予算管理や将来のキャリアでの意思決定に役立つ基礎知識となる。このような実践的な学習を通じて、簿記が企業運営における重要なツールであることを理解する。	
	ファイナンシャルプランニング	個人の生活設計と金融リテラシーの基本を学ぶ。具体的には、収支管理、貯蓄、投資、保険の選び方、住宅ローンの仕組み、年金制度など、日常生活に必要な金融知識を身につける。授業では、将来のライフイベントに備えた資金計画の立て方を学び、経済的な安定を目指すための具体的な方法を理解します。ケーススタディを用いることで、理論だけでなく、実際の状況に即した知識とスキルを身につけることができる。これにより、個々の状況に合わせた賢明な金融判断を下す能力を養う。	
	ITとビジネス	現代社会における情報システムの基本概念とその役割について学ぶ。具体的には、コンピュータの基本的な仕組み、ハードウェアとソフトウェアの構成、ネットワークの基礎、データ管理の方法、情報セキュリティの仕組みと重要性などを学ぶ。授業では、実践的な演習を通じて、日常生活やビジネスシーンで役立つITスキルを中心に身につける。現代社会における情報システムの役割を多面的に理解し、ITリテラシーの向上と活用を促進することを目的とする。	
	カラーコーディネート基礎	色彩は感情や行動にも影響を与えるため、デザインやマーケティング、心理学の分野でも重視されていて、人が受け取る情報の約8割は視覚情報だと言われている。視覚から受け取れる情報は色・形・質感があり、重要な役割を果たしている色彩の役割を理解するため、基本的な色彩理論と応用を組み合わせ、基本的なカラーコーディネート・色の表示・色彩調和について学び、日々の生活や職業に活かせる理論と技術を身につけることを目指す。	
	数的処理と論理的思考	論理的思考、数的処理、言語理解の技術を教授する。数学的知識を身につけることにより、数値・データを読み解き、情報を整理し、理解・説明する能力を身につける。非言語分野においては、割合と比、濃度、速度算、確率など数学の基礎から学び、問題を数多く解くことで幅広く対応する力を身につける。言語分野においては、長文読解、文章整除、熟語、ことわざ、慣用句などの問題演習を繰り返し行うことで実践的な能力を身につける。	

	キャリアプランニング基礎	社会で求められる汎用スキルや姿勢、志向性を理解し、自身の能力向上に注力する。具体的には、学生は1年次に受験したPROGテストの結果をもとに、自己のスキルを客観的に評価する。このプロセスにおいて、グループワークを活用し自己評価の結果を共有することで、弱点を克服する。データや経験に基づいた分析を通じて自己PRを作成し、効果的な学習や課外活動の計画を立てることができる。社会人として必要な能力を具体的に理解し、自己能力の向上につなげる。	
	キャリアプランニング応用	授業では、自分自身の興味や価値観を深く理解することから始め、自分が何に興味を持っているのか、何を大切にしているのかを明確にする。次に、これらの興味や価値観を基に自己分析を行い、自分の将来のビジョンを描く。そして、そのビジョンを実現するために必要な業界や企業について研究し、自分がどのような理由でその業界や企業を目指すのか、志望動機を考える。このプロセスを通じて、自分自身のキャリアパスを考え、就職活動に役立てることができる。	
プロジェクト	プロジェクトA	教育機関等との教育・ビジネスプロジェクトを通して、実践的なスキルの養成を目的とする。学生は教育機関等で発生する実際の問題を特定し、新しい提案を通じて解決策を模索する。これにより、現場で必要とされる教育スキル、ビジネススキル、リーダーシップ力、協調性などを身につけることができる。本プロジェクトでは、タスク管理、ヒアリング、フィールドワークの方法、データ活用方法等を学び、実践的なスキルの獲得を目指す。	
	プロジェクトB	企業や各種団体等と連携し、実際のビジネスプロジェクトに取り組むことで、ビジネスの実践的なスキルの獲得を目的とする。学生は、企業や団体で実際に発生している問題を発見し、それらを解決するための新規提案による解決を目指す。企業や団体等と接することで、社会人として必要なビジネススキルや、問題発見力などだけでなく、マナー、リーダーシップ力、協調性などが身につく。本プロジェクトでは、調査、分析に基づく提案書の作成などを行う。	
	プロジェクトC	海外での活動を通じて、国ごとに異なる社会情勢やその見解の違いを理解する。学生は予め設定された課題に対して、チーム活動による問題の解決を図る。具体的には、事前調査の方法やデータ分析・活用方法、フィールドワークの手法、歴史、言葉や文化などを学び、現地調査のための準備を行う。現地では、ヒアリング調査などを通して、予め設定した目標の達成を目指す。プロジェクトの進行管理、外国人との協働を通じて、グローバルな視点での対応力と問題解決力を身につける。	
	プロジェクトD	国内での活動を通じて、自らが能動的に物事に取り組み、目的を達成するための方法を学ぶ。学生は予め設定された課題に対して、チーム活動による問題解決を図る。具体的には、事前調査の方法やデータ分析・活用方法、フィールドワークの手法などを学び、調査のための準備を行う。活動では、効率的な調査方法を用い、それぞれが設定した目標の達成を目指す。調査後には報告書を作成し、プロジェクトの進行、目標の達成度などを検証することで、振り返り学習を行う。	
	プロジェクトE	社会課題（一部の地域や組織における営みを含む）に焦点をあて、その現状把握と分析を通して、課題の具体的な解決策を考える。学生は、チーム学習により当該問題に関する歴史、類似の事例、外国との比較分析などを行い、当該問題が及ぼす社会的な影響を把握する。その後、チームや個人が持ち合わせている知識を議論などにより応用させ、問題の解決策を策定する。これらの学習により、実社会で何かの問題に直面した際にも、知識ベースで問題を解決するための力を身につける。	
	プロジェクトF	都市郊外や農山村の自然環境に目を向け、環境の特性を知るとともに、自分たちでもかかわることのできる環境保全・地域づくり活動を実体験する。また、「里山」をキーワードに、私たちがこれまで培ってきた社会的、文化的な資産を再認識しつつ、日本が抱える少子高齢化や過疎の問題に立ち向かうために若者が担い得る役割を考える。本授業では、協働作業、成果の報告とフィードバックを通じて、実社会で役立つスキルを実践的に学ぶ。	
	プロジェクトG	ボランティア活動への関心や動機を高め、知識と理解を深めることを目的とする。近年の大学教育では、教室で講義を受けて知識を学ぶだけでなく、学生が主体的に調べ、実社会で他者とかかわる体験をして、思いやりや豊かな感性、社会性を身につける学習方法も求められている。この授業は、学生が自分で探したボランティア先ないしは担当教員が紹介するボランティア先で、主体的にボランティア活動を行い、事前・事後の学習を通じて、ボランティア活動への関心や動機を高め、知識と理解を深める。	

		プロジェクトH	乳幼児親子・子育てに関する理解を深めることを目的とする。学生はテーマに基づき、KIDSセンターでの参加観察、作業及び資料・文献の研究等を行う。＜テーマ：KIDSセンターの遊び環境作り＞KIDSセンターにおける親子自由遊び場面の参加観察Ⅰと資料・文献検索に基づき、小グループで、子どもたちの遊びを広げる手作り段ボール遊具等の企画と製作を行う。さらに参加観察Ⅱを実施し、手作り遊具が実際にどのように用いられるかを観察し、結果をまとめて発表する。	
		プロジェクトI	女性の健康に焦点をあて、肉体的、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた健康状態について学ぶ。健康の意義、健康習慣、健康食品・医薬品などの基礎知識を学び、健康をささえる社会の取り組み、身近な健康維持に関する施設やその役割、健康ビジネスなどを調査する。本授業では、女性が健康状態を維持するための知識と方法を施設見学やヒアリング調査、実体験を通して学び、みずからが実践できるようになることを目標とする。	
		プロジェクトJ	学生の自由な発想で、自ら設定した課題を自らの力で解決する。学生は、少人数のグループを作り、グループでひとつの課題を解決するという経験を通して、発信力や表現力、協働力などを向上させることができる。また、課題解決に向け資料や文献を集め、それらをまとめて人に伝える必要があるので、能動的、自発的な学習を経験できる。正解・解答のある課題に取り組む知識・技能を得ることではなく、正解のない課題を通して問題解決へのアプローチ方法を身につけることを目標とする。	
グローバルキャリア		海外研修A	英語圏での語学研修プログラム（1回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	
		海外研修B	英語圏での語学研修プログラム（2回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	
		海外研修C	英語圏以外での語学研修プログラム（1回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	
		海外研修D	英語圏以外での語学研修プログラム（2回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	
		海外インターンシップ	海外インターンシップを通じて、グローバルな視野を持つこと、海外で実務経験を積むことを目的とします。学生は現地企業での業務を体験し、異文化環境で多様な価値観に触れながら、他者と協働すること学びます。さらに、言語力の向上、ビジネスマナーの習得を通じて、グローバルなビジネススキルを身につけます。異文化の中で生活し、仕事をすることは、自己管理能力や適応力、問題解決能力など、個人の成長に役立つ多くのスキルを養うことができる。	
各教科の指導法・教育		社会科・地理歴史科指導法A	社会科・地理歴史科の授業づくりを構想するにあたって、社会科の目標・内容や特色、教材研究の仕方等について、現場経験を生かすとともに研究者的な立場から必要な基礎的な内容等について講義・演習する。また、アクティブラーニングの視点を取り入れ、グループディスカッション等をしたり、学習指導案について、本時案（略案）の作成方法を学び、自身でも本時案を作成（必要に応じてICT活用を含む）し、それに基づいて模擬授業を行い、社会科授業方法等の基礎を身につけることができる。	

ロの基礎的理解に関する科目等（中・高・栄養免許）

社会科・地理歴史科指導法B	「社会科・地理歴史科指導法A」で学んだことを基礎として、現場経験を生かすとともに研究者的な立場から、優れた社会科・地理歴史科の授業づくり・単元づくりや学習指導全体案の作成方法等について講義・演習をする。また、アクティブラーニングの視点を入れ、グループ討議等の時間を確保し、優れた社会科（地理・歴史的分野）の授業の記録を読むことで、単元づくりや発問・板書などといった指導技術等を学ぶ。さらに、単元づくりや学習指導案（全体案）の作成（必要に応じてICT活用を含む）の演習と模擬授業を行う。
社会科・地理歴史科指導法C	「社会科・地理歴史科指導法A」や「社会科・地理歴史科指導法B」で学んだことを基礎として、アクティブラーニングの視点を取り入れた授業を展開する。社会科・地理歴史科の授業づくりの基礎的な知識等を応用し、新学習指導要領の内容等や優れた社会科の授業について論じる。また、優れた社会科の授業の逐語記録を読み、その授業分析の演習を通して、単元作り・資料作りや発問・板書などといった指導技術等を学ぶ。さらに、学習指導案（全体案）の作成と模擬授業を行い、よりよい授業設計等に向け取り組む。
社会科・地理歴史科指導法D	「社会科・地理歴史科指導法A、B、C」で学んだことを踏まえ、より応用的・発展的な内容として、現場経験を生かすとともに研究者的な立場から、優れた社会科・地理歴史科の授業づくり・単元づくりや学習指導全体案の作成方法等について講義・演習をする。また、アクティブラーニングの視点を入れ、グループ討議等の時間を確保し、優れた社会科（地理・歴史的分野）の授業の記録を読むことで、単元づくりや発問・板書などといった指導技術等を学ぶ。単元づくりや学習指導案（全体案）の作成（必要に応じてICT活用を含む）の演習と模擬授業を行う。
学校と教育の歴史	古代ローマから現在に至るまでの学校と教育の歴史を通史で学ぶ。常に、今日的な教育課題に引き寄せながら考える機会を設け、歴史的事項の意味をより深く理解できるようにするとともに、現在の教育課題に対してその歴史的経緯を踏まえた上で考察することができるようにすることを目指す。教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
教職入門	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、子供の現状、教育に関わる法律や学習指導要領についての理解を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付けられるようにする。調査レポートに取り組んだり、新聞記事を読んだり、グループでディスカッションをしたりし、教育課題に対する考えを深める。その中で、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解できるようにする。
教育社会学	現在の教育課題が生み出されている社会的・制度的背景を理解し、その課題を解決するための方策について考える。授業では、ペアまたは小グループでの話し合い活動を重視し、学生の主体的な授業参加を求める。授業はグループでのディスカッションと発表を行う。現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。
発達と学習	子どもの成長を支援するために重要な発達と学習の基本的な知識について学ぶ。特に幼児期から青年期までの学校教育にかかる期間を中心に、認知、情動、対人関係などの発達と学習について概観し、これまでの心理学研究や理論を紹介しながら、子どもの理解や教育的対応について考える。「おとなになる」ということは、どのようなことを意味するのであるうか。人間は二十歳になれば、はたしておとなになるのか。本講義ではこのような疑問に対して、教育・発達心理学的な観点からとらえ、「子どもからおとなへ」の発達過程を理解するとともに、その過程における学習や経験の役割を考えていく。
特別支援教育の理論と方法	2015年に採択された国連「持続可能な開発目標」には、「すべての人々に安全で、包括的、効果的な学習環境を提供する質の高い教育」という2030年までの目標が掲げられた。日本でも特殊教育から特別支援教育への制度的な転換が行われ、特別支援教育の認識を広げるためには歴史や課題、方策を考察する必要がある。障害のある生徒や対人関係に課題を抱える生徒をどのように理解し、どんな指導をすればよいかということについて探究したり、障害にかかわる知識を深めたりする中で自分の行動や考え方を振り返る。
教育課程論	日本の教育課程の歴史を概観するとともに、変化の目まぐるしい21世紀社会におけるさまざまな教育問題を考える。また、学習指導要領に基づく教育課程を各学校においてどのように実践するか、カリキュラム・マネジメント、授業デザインの方法論などを、人間教育の理念と関連付けながら議論する。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

道徳教育の理論と方法	前半に道徳教育の歴史・理論・方法などについて学習し、道徳教育を実践していく上での基礎を培う。その上で読み物資料を使った授業やモラルジレンマ授業などいくつかの授業方法について学習し、指導案作成と模擬授業を体験する。グループでのディスカッションと模擬授業を行う。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。
総合的な学習の時間の指導法	授業形式は、講義と自己プレゼンテーションの発表である。自己プレゼンテーションの発表（以下自己プレと記述）は、自宅学修でまとめたものを授業で発表する。アクティブ・ラーニングの推進に相応しい教育活動、全教科、領域の教育活動と横断的総合的に関わる単元計画づくり、自己の生き方を探求するキャリア教育との関わり、SDG sの観点から課題解決に関わる授業づくり、学校現場で生き生きと活躍する教師や児童生徒の姿を理解する。
特別活動の指導法	特別活動の目的や歴史、指導に必要な理論の紹介に引き続き、学級活動、学校行事、生徒会活動（児童会活動）、クラブ・委員会活動等、学校で行われている実践事例の分析をグループワークやアクティブラーニングを通じて行い、特別活動における各活動の特徴と指導の在り方を考える。さらに、今日的教育課題に基づいて授業実践の在り方を学習指導案作成を通じて学修する。また、キャリア教育との関わり課題研究を通じて調べ、キャリア教育の要としての特別活動の在り方について理解を深める。
教育の方法及び情報通信技術の活用	児童・生徒に身に付けさせるべき、これからの社会で必要となる資質・能力について理解し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計能力や実践力を、討論や学習指導案作成、模擬授業等を通じて身に付ける。また、ICTを活用することで従来は実現が困難であった個別最適化された学習が可能になることや、特別な支援を要する児童・生徒がICTを活用することにより効果的に学習できること等を理解する。基本的な授業スキル、生徒への学習指導、指導案作成の方法等を実践的に学ぶ授業を行う。
生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法	生徒指導・進路指導の在り方・進め方について理論、実践両面から学習する。講義前半では、生徒指導・進路指導が学校教育にどのように位置づけられているのか、またその意義・目的は何か、近年の青少年を取り巻く問題をトピックとして取り上げながら論じていく。また、後半では前半で学んだ理論的背景を基礎として、実際に現場で起こりそうなケースについて受講者全員で議論し、教師としてどのような指導を心掛けていく必要があるのか、理解を深めていく。（Jambordもしくは大体できるツールを活用したALを実施予定）
教育相談	教育相談をテーマにしながら、教育現場において様々な心の問題に向き合うために必要な知識や姿勢について学習する。幼児期・児童期・思春期・青年期の各発達段階において見られる諸問題について理解を深めると同時に、支援の方法について学ぶ。また、教育現場における社会的なニーズに応じた支援や、学校内や地域との連携なども扱う。教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における心の援助のための基本的な姿勢を身に付けることを目標とする。
教育実習 A	基本的な授業スキル、生徒への学習指導、指導案作成の方法等を実践的に学ぶ授業を行う。教師の仕事及び学校生活を理解することや、学校現場における生徒を理解すること、大学で学んだ理論と実践を統合させ指導力を身に付けることを目標として実習を行う。事前指導として、自身の教育観についての振り返り、教育実習の意義と課題、教育実習記録の書き方、教育実習中の注意事項、模擬授業、実習に向けた準備、心構え等を学ぶ。事後指導では、教育実習で学んだことのまとめと教師になるためにその経験を生かす方法について学修する。
教育実習 B	実際の授業を担当できるだけの準備を事前指導で行い、教育実習から得た自分の課題等を分析するために事後指導を行う。基本的な授業スキル、生徒への学習指導、指導案作成の方法等を実践的に学ぶ授業を行う。教師の仕事及び学校生活を理解することや、学校現場における生徒を理解すること、大学で学んだ理論と実践を統合させ指導力を身に付けることを目標として実習を行う。教育実習で学んだことのまとめを事後指導として行うことで、より実践的な指導力を身に付ける。
教職実践演習（中高）	教員として必要な資質・能力を、講義、演習、課題（教育現場の調査等）の中で養成することをめざす。学内で学んできたこと学外での教育実習等で学んだことを基に、主体的に自分の資質・能力をさらに向上させていけるよう、自己を振り返らせたり、学生同士で議論させたりする場を複数回設定する。意見の発表やロールプレイ、模擬授業等を行い、その都度、学生間の相互評価と指導者からの評価の両方を行って指導する。また、特色ある教育活動や学校が直面している問題等を取り上げ、それを調査し、考察する課題を課す。中学校教員としての実務経験を活かし、教育現場の問題について議論したり、自身の教育観について振り返らせたり、模擬授業を通じて授業スキルを磨く場面を設定したりするなど、アクティブラーニング型の授業を行う。

専門 教育 科目	基礎 科目	日本史入門（１）	○	この授業では、広い教養と歴史・文化に関する基礎知識を身に付けることを目的とする。日本の歴史のうち、この授業では古代から近世に至る歴史の流れを学び、各時代を代表する歴史事項に関する通説と課題を知る。具体的には古墳の成立、王都の変遷、武士の発生、戦国争乱史などを取り上げるが、通史を学ぶとともに、現状における研究の到達点と歴史研究の方法を理解した上で、時代の区切りごとにまとめを行い、課題を通して理解度を深める。	主要授業科目
		日本史入門（２）	○	この授業では、広い教養と、歴史・文化に関する基礎知識を身に付けることを目的とする。前期の「日本史入門(1)」に続き、この授業では日本の歴史のうち、幕末維新期から現代に至るまでの歴史の流れを学び、各時代を代表する歴史事項に関する通説と課題を知る。具体的には統一政権の実像、徳川政権の特質、海禁下の海外交流、庶民文化の展開を取り上げる。あわせて現状における研究の到達点と歴史研究の方法を理解した上で、時代の区切りごとにまとめを行い、課題を通して理解度を深める。	主要授業科目
		アジア史入門（１）	○	この授業では、インドの歴史観を確認することを目的とする。そのため、インド独立運動の指導者であり、初代首相でもあるジャワハール・ネルーの『父が子に語る世界歴史』を用いて「世界史」を学ぶ。前期は古代文明の誕生から、インドに植民地支配が進む19世紀までを扱う。ネルーが語る歴史は、私たちが知っている世界史とかなり違っている。本書を通して、インドの歴史観を知ると同時に、私たちの歴史観が唯一のものではないことを学ぶ。	主要授業科目
		アジア史入門（２）	○	この授業では、インドの歴史観を確認することを目的とする。そのため、インド独立運動の指導者であり、初代首相でもあるジャワハール・ネルーの『父が子に語る世界歴史』を用いて「世界史」を学ぶ。後期は西洋の近代化とそれが世界に及ぼした影響を確認することからはじめ、第二次世界大戦前夜までを扱う。ネルーの語る歴史は、私たちが知っている歴史とはかなり違っている。本書を通して、インドの歴史観を知ると同時に、私たちの歴史観が唯一のものではないことを学ぶ。	主要授業科目
		西洋史入門（１）	○	この授業は、現代ヨーロッパの地域アイデンティティを問う上で必要な、古代から中世にかけてのヨーロッパの歴史・文化に関する基礎知識を身に付けることを目的とする。そのために、とくにキリスト教との関わりを軸にヨーロッパとその周辺地域の古代から中世までを概観する。ヨーロッパの境界線をどこに引くのかという問題をめぐっては、ロシアとEU諸国の対立など現代においても大きな問題となっている。そもそも「ヨーロッパ」という地域アイデンティティ自体が歴史の中で創られ、揺らぎ続けてきた。「ヨーロッパとは何か」という問いを通じて歴史的考察力を育む。	主要授業科目
		西洋史入門（２）	○	この授業は、アメリカも含む「西洋」の近世から現代にかけての歴史・文化の基礎知識を身に付けることを目的とする。そのために、ヨーロッパ諸国によって世界の一体化が進められた近世から、社会の変化が加速していく現代までを概観する。15世紀末以降、大西洋を越えて「発見」されたアメリカをはじめ、ヨーロッパ人たちの植民によって「西洋」が大きく拡張するのと軌を一にして、古きヨーロッパ内部では宗教改革を背景とする分裂・対立が深まり、「西洋」は大きく変貌していった。「西洋とは何か」という問いを通じて歴史的考察力を育む。	主要授業科目
基幹 科目	地域 史研 究科 目群	日本史概論A		この授業では、ナショナリズムをより深く理解するための授業とする。理論的な前提としての、ベネディクト・アンダーソンのナショナリズム論をまずは説明・解説していく。アンダーソンが指摘したモデルとしての三つのナショナリズムや、均質で空虚な時間の問題などを紹介していく。こうした理論的前提を踏まえたうえで、日本ナショナリズムに関わる文化研究に焦点を当て、具体的個別的な研究を検討していく。「日本」の「歴史」とは何か、日本史・日本文化にかかわる専門的で総合的な視点を獲得する授業を行う。	
		日本史概論B		この授業では、写真資料と文字資料によって様々な地域の戦争の記憶をたどり、現代社会が抱える問題に焦点を当てていく。東海地域から日本各地さらには東アジアまで、日中戦争を中心にパワーポイントで現地でも撮ってきた写真をもとに、地域の歴史と文化を観る総合的な視点を獲得することを目指す授業となる。具体的には、愛知県の三ヶ根山のA級戦犯の碑、美濃の英霊人形、さらには秋田花岡の中国人強制連行の現場や沖縄のガマや基地・戦跡等を紹介していく。同時にそうした日本での記憶が、中国や韓国・台湾などではどう表象されているのかについても紹介し、日本史を相対化しながら理解していく道筋を示していく。	
		アジア史概論A		この授業は、東アジア特に中国および中華圏の歴史を、清朝末期から第二次世界大戦直後に至るまでの周辺地域との関係から概観することを通して、歴史・文化・政治に関する知識の習得と地域文化を観るための総合的な視点を獲得することを目的とする。東アジアにおける中国近代史の位置づけを考えるにあたっては、日中戦争、植民地支配、戦後の中華圏社会といった視点を押さえつつ、映画などの文化的事象が成立する社会的背景に注目するとともに、同時代の日本との比較を踏まえて理解を深める。	

アジア史概論B		この授業では、東アジア特に台湾を中心とする近現代社会について、歴史・文化・政治などをキーワードにその特性を概観し、基礎知識を習得することを通し、地域文化を観る総合的な視点を獲得することを目的としている。具体的には、清朝末期から日本の台湾植民地支配の時代を経て、第二次世界大戦後に至るまでの台湾の歴史を、同時代における東アジア地域の変容との関わりから見ていく。また、これに加えて戦後日本における中国認識、台湾認識に対する理解を深めていく。	
西洋史概論A		この授業は、ヨーロッパの近代歴史学の成立から「新しい歴史学」への展開を理解することで、多様な地域文化を観る総合的な視点を獲得することを目的とする。そのために、ヨーロッパにおける世界史記述を主な対象とし、特にキリスト教との関係に注目しながら、古代から近代までの「歴史の歴史」の概略をたどったうえで、ドイツとフランスを中心に「近代歴史学」が学問として確立したのち、これを全面的に批判し対決を志向する「新しい歴史学」への転換がどのように生じたかを理解する。私たちが過去を直接知ることができず、私たちの知る「歴史」とは、ある時代、ある地域の歴史家が記述してきたものであって、それは時代や地域が変われば書き換えられうる「現在から過去への問い」であることを自覚していく授業でもある。	
西洋史概論B		この授業は、西洋の歴史学におけるジェンダー問題の取り上げ方を理解し、総合的な視点から説明できるようになることを目的とする。そのために、弓削尚子著『はじめての西洋ジェンダー史 家族史からグローバルストーリーまで』を手掛かりに、近代から現代までの西洋のジェンダーをめぐる歴史学の問題意識とその研究手法を概観する。同時に、ジェンダー史の対象となる近世以降の西洋における家族・女性・身体・男性のありかたについての基礎知識を習得する。	
日本史各論A		この授業では、日本史を東アジアに開かれたものとして理解していくために、靖国神社をその成立をめぐる歴史的経緯や、国家神道体制の中で果たした役割、さらに戦後の靖国神社国家護持法案やA級戦犯合祀と東アジアからの反発など幅広く批判的題材として扱い検討していく。その中で、靖国神社と江戸時代からの神道思想との関係、沖縄戦との関係、また軍人・軍属と同時に皇族をまつる神社でもある点など、複雑に絡まりあう歴史を読み解く、歴史への総合的な視点を獲得していく。	
日本史各論B		この授業では、近現代日本を東アジアとの関係の中で捉えなおすために、具体的には、南京大虐殺や慰安婦問題、あるいは竹島や尖閣などの領土問題を取り上げていき、事実に基づく議論の礎を提供していきたい。アジアとの関わりの中で負の記憶とされるものが、日本でどのように記述されてきたのか、日本の歴史叙述に関わってどのような論争があり、また何が論点となってきたのか等、様々な角度から日本の歴史を総合的に理解できる知識と視野を獲得していく。	
アジア史各論A		この授業は、インド独立運動期をガンディーの非暴力を中心にとらえることで、インドの地域文化を観る総合的な視点を身に付けることを目的とする。そのため、授業ではインドの宗教や言語状況等についても取り上げ、インドが多言語・多民族社会であることを理解する。そのうえで、イギリスによる植民地支配とそこから独立、そしてグローバル化へと続く、近代から現代に至る過程を中心に、インド近現代史に関する理解を深める。	
アジア史各論B		この授業では、バリを中心に、インドネシアの歴史を学ぶことによって、地域文化を知る総合的な視点を有することを目的とする。イスラム教徒が約90%を占めるインドネシアにおいて、バリではほとんどの人がヒンドゥー教を信仰している。この宗教的特徴を手掛かりに、バリの文化的変容の歴史的過程を追う。インド文化の影響、西洋との接触、オランダによる植民地支配、独立運動について学び、「歴史を理解する」とはどういうことを考える。	
西洋史各論A		この授業の目的は、ドイツ語圏の諸地域の歴史の学びを通して、多様な地域文化を総合的に観る視点を獲得することである。そのため、ドイツのベルリン、ケルン、ミュンヘン、フライブルク、オーストリアのウィーン、スイスのチューリヒとベルンといった重要な諸都市を取り上げ、地理的条件が地域の歴史に与えた影響を考察する。まず互いの地理的關係と主要河川を整理し、現在の国境がどこにどのように引かれているのかについて確認したうえで、それぞれの「国家」をあらわす国旗や、各都市の紋章の由来を考えるところから始め、近代国家に属す前から続く都市ごとの歩みをたどる。	

	西洋史各論B	この授業の目的は、ドイツ語圏全体の歴史の学びを通して、多様な地域文化を総合的に観る視点を獲得することである。そのため、ドイツ語圏の歴史上の重要な転換点を中心に、歴史的な出来事や背景にある動機や影響を探り、現代への影響や、地域の歴史と国際的な出来事とがどのように交わっているかを理解する。ドイツ語圏では、イギリスやフランスと比べ、集権化した国家の成立が比較的遅かったため、その歴史は複雑に入り組んでいる。本授業では、フランク王国のカール大帝にまでさかのぼり、その後のヨーロッパ諸国の力学のなかでの神聖ローマ帝国やドイツ帝国の興亡を経て、第二次大戦後の東西ドイツの分断と再統一、EUと現在のドイツ語圏諸国のありかたに至るまでを理解する。	
	地域文化概論	この授業ではオセアニアの地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。オセアニアは、オーストラリアやニュージーランドの先進国と、ポリネシア、メラネシア、ミクロネシアと分類されている多数の小さな島嶼国や領土で構成する。優れた航海民族であった太平洋諸島の人々の先祖たちが西から東へと移住して作り上げた社会は隣接する島々との関係を通して発展し、16世紀以降は、西欧諸国及び日本との関係を通して大きく変容してきた。この授業では、オセアニアの社会と文化が植民地化、独立、近代化、移民、グローバル化などを経て複数文化が共存する社会となった背景とその現状について学ぶ。	
	地域文化各論	この授業ではオセアニアの地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。オセアニアの地域文化の特殊性と共に他地域との類似性を、親族関係や養子・里子制度による人のつながり、貝貨使用やクラ交易からみる経済活動、西洋文化接触と植民地統治の影響、独立運動や観光開発による戦後の社会変化といった各回で取り上げる様々なトピックを通して探究する。地域文化を動態として捉え、それを研究するための人類学的アプローチも習得する。	
プロジェクト科目群	歴史文化研修A	この授業では、名古屋城を中心に据え、名古屋市中心部発展の歴史を学ぶ。「尾張名古屋は城でもつ」と謳ったのは江戸時代の流行歌だった。久しく名古屋城は名古屋市の中心的存在であったわけだが、その歴史は15世紀前半にさかのぼる。名古屋城の歴史的変遷・地理的立地状況・構造と機能を学ぶために、この授業では現存する遺構の実地見学を行う。あわせて中世から近世・近代にいたる名古屋地域の歴史を、遺構をもとに体感し、地域学習の方法論を学ぶ。これらの学びを通して、異なる歴史的背景をもつ人々と相互に理解し、協働する姿勢を獲得することを目的とする。	
	歴史文化研修B	この授業は、台湾の台北にある故宮博物院と台湾歴史博物館を訪れ、現地でのフィールドワークの実施をその中核とするものであり、これを通して、中国および台湾の歴史文化がもつ複雑さに着目し、より深い理解を得ることを目的とするものである。こうした経験や知識によって、異なる歴史背景を持つ人々を理解し、他者と協働する力を養う。なお、研修に際しては、台湾に関する事前学習および中国語学習を実施するとともに、事後には報告書の作成を行う。	
	歴史文化研修C	この授業は、潜伏キリシタンについての学びを通して、異なる歴史的背景を持つ人々を理解する力を育てることを目的とする。そのために、潜伏キリシタンの存在が「記憶化」されている長崎、五島列島を訪れ、キリスト教をめぐる日本と西洋の歴史・文化について考える。事前に、「信徒発見」に深く関わるバリ外国宣教会の年次報告書などの史料を読解するとともに、潜伏キリシタンの信仰や禁教政策についての現在の研究における論点を学んでおく。また2018年に「長崎と天草の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されたことによる宗教ツーリズムの問題についても考える。	
実践教養科目群	文化人類学概論	この授業では文化人類学的知見を基盤とした多様な地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。家族と親族、宗教と世界観、儀礼と時間、交換と経済、自然と人間、法と秩序、政治と権力、ジェンダーとセクシャリティ、医療と文化、死と葬儀といったトピックに沿って、文化人類学の基礎的な知識を身に付ける。世界の様々な地域の事例を通して文化と社会の在り様を学び、私達が「あたりまえ」とする諸制度や考え方を問い直す力を培う。	
	文化人類学各論	この授業では社会問題を取り上げながら、文化人類学的知見を基盤とした多様な地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。文化人類学の最近の研究動向を追いながら、信仰や世界観、動物と人間の関係、モノが生成する文化、災害とリスク管理、記憶とトラウマ、医療における身体文化、観光化における地域社会、科学と文化といった各回で取り上げる様々なトピックを通して、現代を生きる私達が抱える様々な社会問題を分析する力を育む。	

	地域情報学		ビックデータのオープン化に伴い、GIS（地理情報システム）を用いた地理空間情報の活用は、災害対策や都市政策など現実空間における課題解決の手立てとして大いに期待が高まっている。この授業では、GISを通じて地理空間情報を社会の課題解決にいかにか活用することができるのかを総合的な視点から実践的に学ぶことをねらいとする。まずはGISの仕組みや機能を理解し、GISに関する基礎的知識を得るとともに、オープンソース・ソフトウェアであるGISソフト・QGISを実際に動かしてみることで、GISの基本的操作と地図表現についても学ぶ。最終的には受講者自らが設定した課題について、必要とされる地理空間情報を収集し、GISを用いた地図作成や空間分析を行えるようになることを目指す。	
	建築史研修		本授業は、事前学習、学外見学、報告会の3つ活動で構成されるが、学外見学は「伝統建築の見学」「近代化遺産の見学」「現代建築の見学」「生産・販売の現場の見学」で内容が構成される。近隣の貴重な伝統的文化財建造物もしくは復元建造物の見学、明治村の保存建造物の見学、近隣の評価の高い現代建築の見学、建築、インテリアに関連した近隣の工場もしくはショールームの見学と事前・事後活動を通して、見学の前に事前学習をする基本姿勢を身に付け、作品や製品を鑑賞し、製品の製造過程を理解する。	
	フィールドワーク研究	○	この授業では歴史学の実地調査を実施するのに必要な基礎知識と技術を身に付けて、日本、アジア、西洋の歴史を学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。史料に依拠する歴史学において実地調査を行う目的は、主としてオーラルヒストリーを紡ぐため、遺跡や遺物や景観から歴史をたどるためである。本授業の前半では質的調査法の基礎を広く学び、後半では歴史学でのフィールドワークに必要な知識と技術を習得した上で、調査計画・実施・報告の過程を踏む、簡単な実地調査を行う。	主要授業科目
	フィールドワーク実習		この授業では歴史学の実地調査を実施するのに必要な基礎知識と技術を身に付け、日本、アジア、西洋の歴史を学び、また多様な地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。もっぱら史料に依拠する歴史学においても、オーラルヒストリーを紡ぎ、また遺跡や遺物や景観から歴史を辿るために実地調査を行うことは重要な方法である。この授業の前半では質的調査法の基礎を広く学び、後半では歴史学でのフィールドワークに必要な知識と技術を習得した上で、調査計画・実施・報告の過程を踏んだ簡単な実地調査を行う。	
資格関連科目群	宗教学概論		この授業では、いわゆる世界宗教をはじめとした伝統的諸宗教の基本情報や、宗教学で使用される用語について総合的な視点から説明できるようにすることを目的とする。そのために、授業ではまず、宗教とは何かという視点から出発し、世界の宗教状況、そして日本における宗教状況を概観し、その後、宗教に関わる諸問題について、たとえば、カルト問題や死生観を含む倫理的課題、そして国家と宗教との関係等、総合的な視点で考察する。	
	宗教学各論		この授業は、いわゆる世界宗教とされる諸宗教の歴史についての基本的知識を身に付け、総合的な視点から説明できることを目的とする。そのために、授業では、それら諸宗教の成立と教義の内容を含む歴史的変遷・展開を紐解き、大局的に理解していくとともに、また、日本を含む各国への伝播と今日に至るまでの展開にも触れていくこととなる。そうして、諸宗教の社会や文化に及ぼした諸影響や相互連関について総合的な視点で学びを深める。	
	社会学概論		この授業は、多様な地域文化を観る総合的な視点を獲得するために、社会学の古典的研究、様々な社会事象の検討を通じて、社会学の基本的視座や発想法を身に付けることを目的とする。第1部は、身近な事例や代表的な用語を交えつつ、社会学がどういった学問かを紹介する。第2部は、社会学の基礎を築いた主な研究に触れていく。第3部は、都市・家族・教育・犯罪など、社会生活の重要な側面に、社会学の発想を用いて切り込む。全体を通じて、社会学と縁の深い社会調査の目的と意義についても学ぶ。	
	政治学概論		この授業では、西洋政治思想史を学ぶことを通じて、多様な地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。ギリシア・ローマの古典古代から、アメリカ独立やフランス革命を経て現代に至るまでのあいだ、「自由」や「平等」、あるいは「民主主義」や「寛容」といった概念・観念は変化し、また変化させられてきた。西洋政治思想史を学ぶことを通じて、自身とそれを取り巻く環境・文化を相対化し、多角的な視点から考える力を培う。	

考古学概論		この授業では考古学を通して、日本、アジア、西洋の歴史を学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を習得することを目的とする。考古学は物質文化を扱って人類史にアプローチする学問である。本授業では、考古学の歴史や特性を示し、具体的な事例からその研究方法に触れていく。また、考古学が現代社会で持つ意味など、考古学と現代社会の関わりについても考えていく。全14回の授業を通して、考古学という学問の特性を理解し、基礎的な研究視点を習得する。	
人文地理学		地理学とは、地表上に存在するあらゆる自然的・人文的事象を対象とし、それらの関係性や立ち現れ方の違いから地域性を解き明かしていく学問である。このうち人文地理学は、われわれ人間を取り巻く社会環境や社会現象を対象とする分野である。この授業では、人文地理学の多彩な研究領域（都市・農村、ランドスケープ、産業空間、労働と居住、消費生活、地域文化、地図とGIS、公共政策、防災など）を取り上げながら、それらの基礎的な概念や方法論を学ぶことで、身近な地域や空間を地理学的にとらえる総合的な視点と思考力を養うことを目指す。	
地誌学概論		地誌学とは、地域を研究対象とする地理学の方法論の1つであり、地域を構成する自然的要素（地形、気候、水文など）と人文的要素（人口、都市・農村、産業、文化など）の関係性から地域の総合的視点による理解を目指す学問である。概論に相当するこの授業では、日本・世界の諸地域の事例を取り上げながら、地誌学的な見方・考え方の基礎を学ぶことをねらいとする。常に自然と人間の関係性に注視し、かつ空間スケールの異なる地域を取り上げることで、地誌学に求められる「地域を動的にかつマルチスケールでみる視点」を習得することを目指す。	
地誌学各論		地誌学とは、地域を研究対象とする地理学の方法論の1つであり、地域を構成する自然的要素（地形、気候、水文など）と人文的要素（人口、都市・農村、産業、文化など）の関係性から地域の総合的視点による理解を目指す学問である。各論に相当するこの授業では、ヨーロッパを対象に「食」を1つのテーマ軸として、地域を構成する諸要素（自然環境、歴史、文化、生業、観光、制度や慣習）とそれらの関係性を繙いていく。このようにエリアとテーマを特定することで、地誌学的な視点や方法論を応用して地域をとらえられるようになることを目指す。	
自然地理学		この授業は、日本の地形の成り立ちや、地形と人間活動の関わりについての学びを通して、地形から地域文化を観る総合的な視点を得ることを目的とする。そのために、実際に地形図の読図や利用法などを、地形図や航空写真を用いた作業を通して習得し、それらの資料から読みとることのできる地形の特徴、村落立地や地域における人間活動の影響と自然環境の変遷などを考察する。またそれらに加えて、過去数万年間の地形形成史や環境変遷史、環境変化と人間活動との関わりについても解説する。	
生涯学習概論		この授業では、多様な地域文化を包摂する現代社会における諸課題を総合的な視点から理解し、また解決する方法としての生涯学習の意義と機能を理解することを目的とする。この目的を達成するために、まずは生涯学習および社会教育の歴史的展開について概観し、そのうえで、今日、多様性社会（共生社会の実現）に向けた理解を深めることが求められていることを踏まえ、今日の日本社会において様々な文化をルーツにもつ人々などを事例に、生涯学習・社会教育の基礎的知識を習得することを目指すものである。	
博物館概論		この授業では、多様な地域文化を総合的な視点から理解するための施設としての博物館の歴史および文化的な在り方について概観することを通して、現代社会における博物館の位置づけや意義を明らかにするとともに、博物館に関する基礎的な知識を身に付け、専門性の基礎となる能力を養うことを目的とする。こうした目的を達成するために、授業内では、実際の博物館やそこの企画展示等の紹介を通して、その実態や課題を理解できるようにする。	
博物館経営論		この授業では、博物館の経営基盤や、博物館経営の様々な側面（計画と評価、倫理、危機管理）、市民参画や他館・他機関との連携などについて具体例を通じて学び、多様な地域文化を総合的な視点から理解するための施設としての博物館の経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的な能力を養うことを目的とする。こうした目的を達成するために、博物館運営について諸事例を通じて学ぶとともに、博物館学芸員としての基本的な知識とセンスを身に付けるためのディスカッションなどの実践的な学びを展開する。	
博物館資料論		この授業では、多様な地域文化を総合的な視点から理解するための施設としての博物館で扱う資料について、博物館資料の概念と調査研究活動のあり方について理解することを目的としている。具体的には、博物館の性格を踏まえ、その資料を収集・保存し、またこれを研究するための基本的な理念と方法を学ぶとともに、一般社会にむけてその成果を公開し、さらに展示していく方法論を理解し、博物館の資料を取り扱うための基礎的な能力を身に付ける。	

	博物館資料保存論	この授業では、博物館資料論を受けて、多様な地域文化を総合的な視点から理解するための施設としての博物館における資料の保全、それぞれの資料に適した保存・展示環境、文化財の保存と活用における博物館の役割などについて、科学的知見も含む基礎的な知識を習得することを目的とする。この目的を達成するために、資料の保存に関する具体的な事例を取り上げることを通して、その資料の性格を踏まえ、どのような視点で資料を保存すべきかについての理解を深める。	
	博物館展示論	この授業では、多様な地域文化を総合的な視点から理解するための施設としての博物館における展示の歴史や意義について理解することを目的とする。この目的を達成するために、とくに歴史系および美術系の博物館における展示の具体的な構築過程を事例に、資料の展示の概念や運営等についての知識を深めるとともに、展示における様々なメディアの利用また展示を通じた教育活動など、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うものとする。	
	博物館教育論	この授業では、多様な地域文化を総合的な視点から理解するための施設としての博物館が、その機能のすべてにおいて、教育的な役割を求められた施設でもあることを踏まえ、そうした博物館教育の意義と理念について理解することを目的とする。この目的を達成するため、博物館における資料の収集や保管、調査研究、また展示や広報を含む運営などと教育との関係の実際について、多様な実践事例を示しながらその理解を深めていくものとする。	
	博物館情報・メディア論	この授業では、多様な地域文化を総合的な視点から理解するための施設としての博物館における情報やメディアの在り方とその提供および活用に関する基礎的能力を養うことを目的とする。この目的を達成するために、博物館における資料のデータベース化やデジタルアーカイブの構築について、とりわけ近年のICT（情報通信技術）の進歩を踏まえた方法論を、実例を通して理解するとともに、現代社会における博物館の情報発信についての現状と課題を把握できるようにする。	
	博物館実習（1）	この授業では、異なる歴史的背景をもつ人々と相互に理解し、協働することを目的に、博物館における展示や運営などで必要とされるスキルを身に付けるための学内実習を行う。この学内実習は、本学史料を含む諸資料を保管・展示する金城学院史料館を活用しつつ、近県をふくむ博物館を見学することを通して実際の博物館運営を学ぶものとする。なお指導に際しては、授業担当者がもつ学芸員としての実務経験に基づいてこれを行うものとする。	
	博物館実習（2）	この授業では、異なる歴史的背景をもつ人々と相互に理解し、協働することを目的に、博物館における実習および、事前事後の指導を行う。実習においては、実習先博物館の学芸員による指導のもと、実際に博物館内での業務に関わりながら学びを進めていく。実習期間としては、合計5日間程度を予定しており、実習終了後は、その振り返りとしての反省会を行う。なお指導に際しては、授業担当者がもつ学芸員としての実務経験に基づいてこれを行うものとする。	
	世界遺産研究	この授業では、日本、アジア、西洋の歴史と世界遺産との関わりを学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を得ることを目的とする。そのために、世界遺産条約やユネスコの理念、世界遺産の登録と申請の仕組み、世界遺産の概念といった世界遺産の基礎知識を確認することから始め、日本および海外の各地の世界文化遺産および自然遺産について、比較も交えながら、宗教・文化の多様性、地域の課題、環境問題、芸術・建築といった幅広い見地から理解していく。	
展開科目	史料購読科目群	日本史史料講読A	山本昭宏『戦後民主主義』（中公新書）を手掛かりに、戦後日本の政治史・文化史の問題について、各自で本文を踏まえながら、調べた資料について報告する。戦後の政治史に偏らない、広い視野で戦後を扱おうとする著書に基づきながら、それを読解し、自らの関心を育て、その関心に基づいて自ら調査し、レジュメとして言語化・報告し、全員で議論するという授業となる。先行研究をどのように批判的に乗り越えていくのか、思考力と判断力を養うことを目的とする。
	日本史史料講読B	田中宏『在日外国人』（岩波新書）を手掛かりに、戦後日本社会の問題を、在日外国人の地位に関わる様々な具体的問題に照らしながら考えていく。著書から、戦後の在日外国人管理政策が、在日朝鮮人を念頭に置いて始まったものであること、90年代から、外国人労働者を日本に呼び寄せる政策がそこに加えられたことを理解していく。同時に、在日外国人についての自らの問題関心を育て、その関心に基づいて調査し、レジュメとして言語化・報告し、全員で議論するという授業となる。先行研究をどのように批判的に乗り越えていくのか、戦後日本社会における多様性の問題に対する思考力や判断力を育てる。	

	アジア史史料講読A	この授業では、歴史を学ぶのに必要な思考力と判断力を身に付けることを目的とし、ポストコロニアル研究の基本を学ぶ。ポストコロニアル研究者といえば、エドワード・サイード、ホミ・バーバ、ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァクの3人が著名だが、この授業ではスピヴァクを中心に扱う。スピヴァクの著書は難解なことでも有名である。そのため、この授業では原書を読むための準備として、スピヴァクに関する概説書を輪読し、ポストコロニアル理論に関する基礎知識を習得することを目的とする。	
	アジア史史料講読B	この授業では、前期に引き続き、歴史を学ぶのに必要な思考力と判断力を身に付けることを目的とし、ポストコロニアル研究の基本を学ぶ。ポストコロニアル研究者といえば、エドワード・サイード、ホミ・バーバ、ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァクの3人が著名だが、この授業ではスピヴァクを中心に扱う。この授業では、スピヴァクの『サバルタンは語るができるか』を輪読する。「アジア史史料講読A」で学んだポストコロニアル理論に関する基本事項を踏まえ、史料の分析方法について理解を深める。	
	西洋史史料講読A	この授業は、20世紀ヨーロッパにおけるユダヤ人問題を当事者の証言とともに学ぶことで、自身の思考力と判断力を培い、地域社会に貢献できる素地を形成することを目的とする。そのために、ヴィシー政権下においてユダヤ人迫害の進行していく様子を観察し記録した『エレヌ・ペールの日記』を精読する。エレヌ・ペールは当時ソルボンヌ大学で英文学を学ぶ学生で、何が起きているかを理解しながら占領下のパリにとどまり、ユダヤ系の子どもの逃がす地下活動を行っていた。2008年に初めて刊行されたこの日記を、同時代の他の史料と突き合わせつつ読み、個人の日記の史料的価値についても考える。	
	西洋史史料講読B	この授業は、18世紀ヨーロッパの歴史と文化への理解を深め、思考力と判断力を培うことで、地域社会のありかたを広いスパンで見つめなおす視点を獲得することを目的とする。そのために、18世紀ヨーロッパの君主や学者たちとの交流や遍歴を重ねたヴォルテールの『回想録』を精読する。『ルイ十四世の世紀』や『歴史哲学』などの著者でもある歴史家ヴォルテールがヨーロッパ社会の政治的・思想的変動をいかに捉えたかを、他の史料と突き合わせつつ検証する。また、テキスト形態の「回想録」の史料的価値についても考える。	
	古文書学	この授業では、江戸時代以前の一般的な文書だったいわゆる「古文書」解読の方法論を学ぶ。古文書では、現在の文書と異なる独特の言い回し、文字・表記が用いられるため、読解のためにはそれらに関する基礎知識が必要となる。この授業では、まずそれら知識の獲得から始まり、最終的には古文書の解読を試みる。またその際、古文書が書かれた時代の背景を学ぶことも必要となる。以上の学びを通じて、日本の歴史を学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を獲得することを目的とする。	
	アーカイブズ研究	この授業では、歴史的な資料の保存や管理方法などアーカイブズに関する基礎知識を学ぶとともに、資料の記録/管理のあり方やその社会的意義、問題点を総合的な視点で探り、理解することを目的とする。授業を進めるに際しては、研究機関や博物館・図書館および文書館等の具体的なアーカイブズの事例を紹介する一方、各々の事例に沿った課題を課す。受講生は課題に従って適切な資料を発掘し、議論することを通してアーカイブズへの理解を深める。	
	史料調査方法論	この授業は、「史料」の定義やその保存や管理の実態を概観するとともに、現代社会においてこれがいかに活用されているのかについて、講義および実践を通して把握し、総合的な視点で「史料」の社会的意義を理解することを目的とするものである。この目的を達成するために、授業の前半では、史料調査（保存・管理・調査・情報保護）に関する方法を学び、後半では、デジタル化された史料および本学所蔵の史料など実際の資料を取り扱い、実践を通して史料調査に対する理解を深める。	
総合歴史研究科目群	日本史特殊講義A	この授業では、歴史学の大前提である時間の問題（因果律とは異なる時間の可能性）を、前半は、理論的に追究し、系譜学的時間論を紹介していく。そこで取り上げるのは、ニーチェ、フーコー、サイード、バトラーの系譜学や時間に関する議論である。後半は、その実践的記述として、日本の武士道という具体的な素材を系譜学的・批判的に考察する。そこでの批判的な検討は、単に武士道の中身を批判するのではなく、その歴史的記述方法としての時間論的な批判となる。こうした時間論的な思考を通じて、課題の発見と解決に向けた思考の深さを養っていく。	

日本史特殊講義B		この授業では、文化理解のために、ブルデューの差別化の装置としての文化理解と、サイードのオリエンタリズムの問題を紹介する。また現代社会を考えるためにデヴィッド・ハーヴェイを踏まえつつ、新自由主義的自己責任論や格差問題等を紹介し、特に新自由主義下の女性の問題にも焦点を当てていく。フェミニズム的な視点、女性の社会的地位の問題（ジェンダー格差）について、日本を具体的な事例としながら検討する。これらの歴史研究・文化研究の問題意識に触れることで、現代日本社会における課題の発見と解決に向けた知を獲得することを旨とする。	
日本史特殊講義C		この授業では、現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できることを目的とする。そのため、授業では考察対象として、江戸時代の尾張国を取り上げる。江戸時代を通じて尾張国を統治した尾張徳川家は、今なおお宝類と共に記録類などの文化遺産も併せて受け継いでおり、大名文化とは何かを伝えられる唯一の大名家である。尾張徳川家の歴代当主の事績を通じて、尾張国の歴史と現代に続く尾張藩独自の文化を学ぶ。また、時代の区切りごとにまとめを行い、課題を通して理解度を深める。	
アジア史特殊講義A		この授業は、民族に注目した清朝の統治地域の学びを通して、現代まで続く課題を発見し、それぞれの学生が発見した課題について解決に向けて議論できることを目的とする。授業内容としては、まず中国世界における民族観の変遷について概観した上で、清朝による漢族支配について、特に文化政策に重点を置いて考察し、あわせて他の民族との関係や周辺国家との外交についても講義する。その上で、清末の西洋による中国進出により、清朝の民族観にどのような変化をもたらしたかを明らかにする。	
アジア史特殊講義B		この授業は、明清時代の科挙についての学びを通して、人材登用制度の変遷に関する課題を発見し、それぞれの学生が発見した課題について解決に向けた議論ができることを目的とする。授業では、まず中国世界における人材観と科挙導入以前の人材登用制度について紹介し、元代までの科挙制度の変遷について講義する。明清時代における科挙の完成によって、その制度の当時の社会における役割を明らかにする。その上で、周辺国家への影響や近現代以降の科挙に対する評価にも言及することで、試験による人材登用制度に対する歴史的評価について理解を深める。	
アジア史特殊講義C		この授業では、1945年までの「日本」を、植民地支配を展開する「帝国」としての側面から検討し、日本と周辺諸国・地域との関係史を通して、近現代東アジア社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み態度を養うことを目的とする。この目的を達成するために、日本の植民地であった台湾や朝鮮だけでなく、日本が設立した満州国にも目を向け、日本の植民地獲得以降を時系列的に把握しつつ、日本の近代史を一国史的にではなく、東アジアとの関わりのなかから理解できるように授業を展開していく。	
アジア史特殊講義D		この授業では、近現代の世界史における華僑・華人の位置づけの検討を通して、現代の国際社会における中華圏の課題の発見とその検討に主体的に取り組み、学生自身のことばで論じることができるようになることを目的とする。華僑・華人の多くは植民地統治または半植民地状態のなかで、自発・強制を問わず国際的に移動することを余儀なくされた経験をもった人々であり、これらの人々が、こうした混乱のなかで歩んできた歴史を理解することを通して、「植民地と今」への視座を深め、現代にも残る課題を検討していく。	
西洋史特殊講義A		この授業は、現代社会の課題を発見する力、およびその解決について考え自身の言葉で発信する力を育てることを目的とする。そのために、フランスの人類学者ジェルメーン・ティヨンが激動の20世紀をいかに生き、考えたかの軌跡をたどる。彼女が研究対象とするアルジェリアの部族社会での生活、ドイツ占領下でのレジスタンス活動とラーフェンスブリュック強制収容所での体験、それら直近の過去を「歴史」として検証する作業、アルジェリア独立戦争時の政治的活動などにおいて、彼女がそのつど見出した課題と解決に向けた行動について考察する。	
西洋史特殊講義B		この授業は、ヘーゲルの歴史理論が現代の社会や政治に与えた影響について課題を発見し、学生が自分の言葉で論じられるようになることを目的とする。そのため、ヘーゲル以前の歴史解釈を踏まえつつ、ヘーゲルの『歴史哲学講義』を取り上げ、ここに見られる世界精神の歩みとしての世界史構想や、中国・インドなどの東洋世界へのまなざしを分析する。その後ヘーゲルの理論がマルクスの唯物史観や西田幾多郎の哲学へ与えた影響を理解する。	

西洋史特殊講義C	この授業は、政治レベルだけではなく国際友好のありかたを知ることで、その妨げとなりうる課題を発見し、解決の方法について考えられるようになることを目的とする。そのため、17世紀における日独関係の起源から始め、幕末の1861年に結ばれた日本・プロイセン修好通商条約を「日独交流150周年」として祝った2011年まで、日独のあいだの「友好」に関わる歴史的な出来事をたどるとともに、ドイツに対する国際的な認識の変遷と、世界の中でドイツが果たしてきた役割を考える。
文化特殊講義A	この授業では現代社会におけるジェンダー・セクシャリティに関わる課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できるようになることを目的とする。性のカテゴリーに関わる議論、性別分業・労働、結婚と育児、グローバル化とジェンダー、暴力とジェンダー、エスニシティとジェンダー、性の多様性といった各回で取り上げるトピックを通して、近年のジェンダー・セクシャリティの研究動向に沿いながら、世界の様々な地域の性のあり方や性に関わる問題について考える。
文化特殊講義B	この授業では現代社会における身体文化に関わる課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できるようになることを目的とする。前半ではモースの身体技法、ブルデューのハビトゥス、フーコーの生政治、パトラーのパフォーマティヴィティなど、文化人類学及び隣接分野の身体に関わる理論を学び、後半では身体装飾・身体加工、身体とテクノロジー、放射能汚染と身体、医療と身体といった各回で取り上げるトピックを通して、身体と社会・文化の関係を専門的に理解する。
日本文化史A	この授業では、現代社会における課題の発見と解決のための力を身に付けるため、日本における文化の歴史的展開を理解することを目的とするものである。この目的を達成するために、まず歴史とくに文化史・思想史の方法論を概観することを通して、これをいかに実際の時代・地域に用いるべきかを理解し、さらに近世以降の日本における具体的な思想史的事象を取り上げつつ、時代状況と文化史・思想史的展開とがいかに関連しているのかを把握できるようにする。
日本文化史B	この授業では、前期に引き続き、現代社会における課題の発見と解決のための力を身に付けるため、日本における文化の歴史的展開を理解することを目的とするものである。この目的を達成するために、この列島に住む人々が、近代以降において、どのように日本を取り巻く世界を見たのか、その変容について把握するとともに、「日本」という自己意識（帰属意識）が、そもそもア prioriに存在するのではなく、他者（世界）との関わりの中から発生してきたことを理解できるようにする。
アジア文化史A	この授業は、明清思想史の学びを通して、西洋文明との接触による東アジアの伝統思想の変容について課題を発見できることを目的とする。授業では、まず中国思想史の流れについて概観した上で、その集大成ともいえる朱子学の思想体系について紹介する。その上で、明清の思想家が朱子学に対してどのような態度をとっていたかを講義していく。清末になると、西洋が中国世界の侵食を目論むようになるが、それに対し、当時の知識人が社会に対する危機意識を自らの思想にどう反映していたかを明らかにする。
アジア文化史B	この授業は、中国と日本の文学上の影響関係に関する学びを通して、日中文化の交流について課題を発見できることを目的とする。授業では、まず元以前の中国文学史の流れについて概観した上で、文言作品と白話作品にジャンルを分けて、各ジャンルがどのような特徴を持つか紹介しつつ明清文学史を講義する。その上で、中国の文学観が同時代の日本に与えた影響や現代の文学観との違いについて考察することで、東アジア文化圏に対する総合的な視点から文学史に対する理解を深める。
西洋文化史A	この授業は、西洋社会の基本的価値観・知的基盤の形成を学ぶことで、現代社会の課題を発見できるようになることを目的とする。そのため、古代のギリシア哲学、中世のキリスト教、近世の宗教改革のもとで形作られてきた人間観が、ロマン主義と個人主義、啓蒙主義と功利主義などの思想のひろがりゆくなか、科学革命や工業化にともなう新たな知的活動においてどのように変化していったかを概観し、思想と社会との関わりを理解する。
西洋文化史B	この授業は、中央ヨーロッパのドイツ語圏の文学・芸術を通じた過去の対話によって、現代社会の課題を発見できるようになることを目的とする。そのために、16世紀の民衆本の紹介から始め、レッシングやゲーテ、シラー、そしてロマン主義を経て20世紀前半の表現主義や象徴主義に至るまでを、文学・音楽・絵画・建築といった異なる芸術形式から社会や文化の変遷を学び、時代の精神や価値観を探っていく。とくに、異なる芸術形式が互いに関連しあっている点に注目していく。

	イギリス文化史		現代イギリスの文化と社会の諸相について、英文テキストを読みながら理解を深めていく。主なトピックは、「イギリスの諸地域」、「イギリス社会に見られる分断」、「多文化社会化」、「階級の問題」、「教育」、「芸術文化」、「紅茶の歴史」、「女性の活躍」、「科学技術」等である。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
	アメリカ文化史		今日アメリカ合衆国と呼ばれる場所で生活する人々が、15世紀終わり以降、現代に至るまでに経験してきたことについて理解することを目指す。具体的には、人々の多様性と、人種・ジェンダー・セクシュアリティ・階級による権力の不均衡とに注意を払いながら、アメリカ社会・文化の形成過程を考察する。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
	西洋美術史A		この授業は、芸術と時代との関係を学ぶことによって、現代社会を相対化し、課題を発見する力を培うことを目的とする。そのために、人類が残した美術の痕跡から16世紀の美術まで、各時代を代表する作品を取り上げて、その表現方法を分析する。その表現方法からリーディングできることを考える。具体的には、古代ギリシャ・ローマからルネサンスに至るまでを扱う。ルネサンス以降は、特にイタリアを中心に扱い、西洋美術の根幹となる古典主義に対する理解を深める。	
	西洋美術史B		この授業は、芸術と時代との関係を学ぶことによって、現代社会を相対化し、課題を発見する力を培うことを目的とする。そのために、ヨーロッパを中心に17世紀から20世紀初頭までの各時代を代表する美術作品のスライドを通して、その表現方法の変化を分析する。その表現方法からリーディングできることを考える。具体的には、バロックから近代まで、古典主義の変容と、現代へとつながるモダン・アート誕生の歴史的背景を理解する。	
	文化交流史A		この授業では、現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できるようになることを目的とする。具体的には日本と沖縄の関係を焦点化し、柳田國男が主催した「南島研究」を対象に日本と沖縄の文化交流を考える。琉球王国の文化を中心とする「南島研究」の起源は1925年にさかのぼる。同年に出版された『海南小記』にも見て取れるように、柳田が沖縄に注いだ眼差しには、当初からイデオロギー性が認められる。この授業を通して、文化史理解における視座の重要性について学ぶことを目標とする。	
	文化交流史B		この授業では、現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できるようになることを目的とする。前期に引き続き、具体的には日本と沖縄の関係を焦点化し、柳田國男が主宰した「南島研究」を対象に日本と沖縄の文化交流を考えるが、「文化交流史B」では「沖縄学の父」伊波普猷に着目する。伊波は「南島研究」の一員として参加していたが、「南島研究」のイデオロギー性を思えば、伊波が難しい立ち位置に置かれていたことは想像に難くない。前期の学びをふまえ、「南島研究」を伊波の視点からとらえ直すことで、文化史理解における視座の重要性について、さらに学びを深めることを目標とする。	
	文化遺産研究		この授業では、世界有数の文化財保護制度を誇る日本の文化財の現状について学び、課題の発見と解決に向けた考察ができるようになることを目的とする。具体的には、文化財保護法が目指す保護の理念を前提とした保存と活用の現状を確認し、理解する。また、明治時代にさかのぼる文化財保護制度制定の歴史を理解した上で、時代の要請に応じて改訂された文化財保護法の変遷過程を学び、拡大された保護対象の価値を理解する。主に東海3県（愛知・岐阜・三重）所在の国指定・選択・登録文化財を素材とし、身近な文化財についての知見を増やす。また、課目ごとにまとめを行い、課題を通して理解度を深める。	
演習科目	基礎演習（1）	○	この授業は、初年次教育を実施するスタートアップゼミとして、高校までの「歴史」と大学での「歴史学」の違いを理解し、歴史学を学ぶのに必要な思考力と判断力の基礎を養うことを目的とする。授業では歴史学の基礎知識を習得し、基本的な研究方法および必要なスキルとしての史料の集め方や史料批判の方法、レポートの書き方を学ぶ。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを行う。議論を通して自身の考えを深めながら、初めての研究テーマを決め、実際に調査や研究を行い、レポートを執筆する。	主要授業科目

基礎演習 (2)	○	この授業は「基礎演習(1)」で学修した研究方法を活かし、歴史や文化を学ぶために必要な思考力と判断力を身に付けることを目的とする。授業では基本的な史料や研究書を精読し、史料の選択やその解釈方法について学ぶ。また、レポートを執筆するために必要なアカデミック・ライティングの力を身に付けた上で、自身で基礎的な課題を設定し、プレゼンテーションやディスカッションの過程を経て、日本、アジア、西洋の専門的な学びにつながるレポートを執筆する。	主要授業科目
総合歴史演習 (1)	○	この授業は、歴史学に関する1年間の学修成果を活かし、日本、アジア、西洋の歴史を学ぶために必要な思考力と判断力を養うことを目的とする。授業では、国内外の史料や研究書を精読し、歴史学の専門的な研究方法を学ぶと同時に、さまざまな時代や地域における歴史観について理解を深める。学生は課題図書を担当部分について口頭発表した上で、授業内でディスカッションを行う。あわせて、授業内での学びを踏まえた専門的な課題を自身で設定し、各自調査を進めていく。	主要授業科目
総合歴史演習 (2)	○	この授業は「総合歴史演習(1)」に引き続き、史料や研究書を読み進め、自身の思考力と判断力を活用しながら設定した課題について研究を進めることを目的とする。授業では、課題図書に関する口頭発表とディスカッションを通して、史料の読み方や歴史観に対する理解を深める。あわせて、自身が設定した専門的な課題の解明に取り組み、授業内でプレゼンテーションをした上で、質疑応答を行う。その上で、日本、アジア、西洋の歴史や文化に関する論文につながるレポートを執筆する。	主要授業科目
総合歴史演習 (3)	○	この授業は「総合歴史演習(5)」との合同授業となる。3年生は、歴史学に関する2年間の学修成果を活かし、研究発表や討論において自身のことばで発信できることを目的とする。授業では、国内外の史料や専門的な研究書を精読し、自身の思考力と判断力を活用して、論文テーマとして発展できる課題を発見する。設定した課題を整理して論文テーマを決定し、授業内で中間発表をおこなう。3年生は発表に対するコメントを4年生から受け、4年生の研究発表に対しては質問を行うことで、協力して授業を運営する。	主要授業科目
総合歴史演習 (4)	○	この授業は「総合歴史演習(6)」との合同授業となる。「総合歴史演習(3)」に引き続き、国内外の史料や専門的な研究書を精読しつつ、自身の思考力と判断力を活用して論文テーマを決めることを目的とする。3年生は史料の読み方や歴史学の研究方法について理解を深めた上で、自身の論文テーマに有効な史料や研究方法を見つけていく。その上で、4年生と協働しながら、自身が設定した課題を整理して論文テーマを決定し、授業内で中間発表を行う。	主要授業科目
総合歴史演習 (5)	○	この授業は「総合歴史演習(3)」との合同ゼミとなる。4年生は、自身の思考力と判断力を活用して、論文テーマに関する問題意識を深化させ、論文を書き始めることを目的とする。授業では、国内外の史料や専門的な研究書を精読していくが、その際に、4年生は3年生の発表準備を積極的に援助し、学年の異なる学生と協働することを求める。あわせて、自身の論文テーマに関する史料や先行研究の調査を進め、授業内で中間発表をおこなった上で、論文としてまとめ始める。	主要授業科目
総合歴史演習 (6)	○	この授業は「総合歴史演習(4)」との合同ゼミとなる。4年生は、歴史学に関する学修成果の集大成として論文を完成させ、地域社会に貢献できる力を身に付けることを目的とする。授業では、論文の進捗状況を発表し、教員の指導と他の学生との質疑応答を踏まえて、自身の思考力と判断力を活用して論文を執筆する。論文の提出後は教員や他の学生から講評を受け、さらに修正を加える。あわせて、3年生の論文準備に対して助言をおこない、他者との協働を実践する。	主要授業科目
卒業研究プロジェクト		このプロジェクトは、歴史と文化についての学修成果を活かして地域社会に貢献できる力を養うことを目的とする。この科目を履修したい4年生は、希望する指導教員を学科に届け出た上で、教員から指導を適宜受けながら、論文執筆を進める。その過程では、学科教員全員に対する卒業論文の中間報告を実施し、質疑応答を行う。さらに個別指導を受けつつ完成させた論文について、主査と副査による口頭試問を受けることで、自身の思考力と判断力を最大限に発揮する。	

学校法人金城学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金城学院大学				金城学院大学				
文学部				文学部				
日本語日本文化 学科	70	-	280	日本語日本文化 学科	70	-	280	
				<u>国際英語学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)
				<u>総合歴史学科</u>	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学科の設置(届出)
英語英米文化 学科	90	-	360		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
外国語コミュニケー ション学科	80	-	320		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
音楽芸術学科	45	-	180	音楽芸術学科	<u>35</u>	-	<u>140</u>	収容定員減(△40)
				<u>経営学部</u>				学部の設置(届出)
				<u>経営学科</u>				
					<u>140</u>	-	<u>560</u>	
<u>国際情報学部</u>								
国際情報学科	170	3年次 10	700		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月(1年次)
<u>人間科学部</u>				<u>人間科学部</u>				
現代子ども教育学科	120	3年次 5	490	現代子ども教育学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	収容定員減(△90) 令和8年4月
多元心理学科	110	3年次 5	450	多元心理学科	110	-	<u>440</u>	収容定員減(△10)
コミュニティ福祉 学科	75	3年次 5	310		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
				<u>デザイン工学部</u>				学部の設置(届出)
				<u>建築デザイン学科</u>				
					<u>80</u>	-	<u>320</u>	
				<u>情報デザイン学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	
<u>生活環境学部</u>				<u>生活環境学部</u>				
生活マネジメント 学科	70	-	280		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
環境デザイン学科	80	-	320		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
食環境栄養学科	80	-	320	食環境栄養学科	80	-	320	
<u>看護学部</u>				<u>看護学部</u>				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
<u>薬学部</u>				<u>薬学部</u>				
薬学科(6年制)	150	-	900	薬学科(6年制)	150	-	900	
計				計				収容定員減(△550)
	1,240	3年次 25	5,310		<u>1,115</u>	-	<u>4,760</u>	

金城学院大学大学院				金城学院大学大学院				研究科の設置(認可)
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻(D)	2		6	国文学専攻(D)	2		6	
英文学専攻(D)	2		6	英文学専攻(D)	2		6	
社会学専攻(D)	2		6	社会学専攻(D)	2		6	
国文学専攻(M)	5		10	国文学専攻(M)	5		10	
英文学専攻(M)	5		10	英文学専攻(M)	5		10	
社会学専攻(M)	5		10	社会学専攻(M)	5		10	
人間生活学研究科				人間生活学研究科				
人間生活学専攻(D)	3		9	人間生活学専攻(D)	3		9	
消費者科学専攻(M)	8		16	消費者科学専攻(M)	8		16	
人間発達学専攻(M)	8		16	人間発達学専攻(M)	8		16	
				看護学研究科				
				看護学専攻(M)	<u>6</u>		<u>12</u>	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	2		8	薬学専攻(4年制D)	2		8	
計	42	0	97	計	<u>48</u>		<u>109</u>	